

6. 投資信託保有未経験層の状況

(1) 投資信託の購入意向経験〔問 21〕

これまでに投資信託を保有したことのない人に、投資信託を購入したいと思ったことがあるかを尋ねたところ、「ある」は29.2%であった。

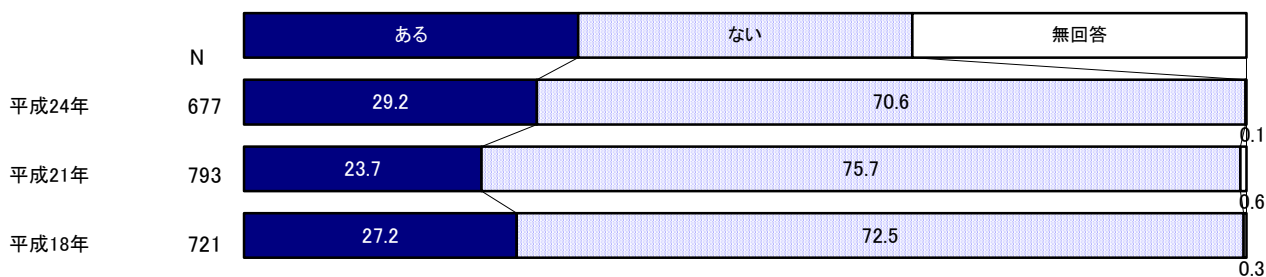
平成21年の調査結果と比べると、5.5ポイント高くなった。

対象者属性別では、性別で見ても大きな違いはみられない。

年代別では、「ある」率は30代(37.4%)を中心とする山型の分布となっており、60代が21.4%で最も低い。

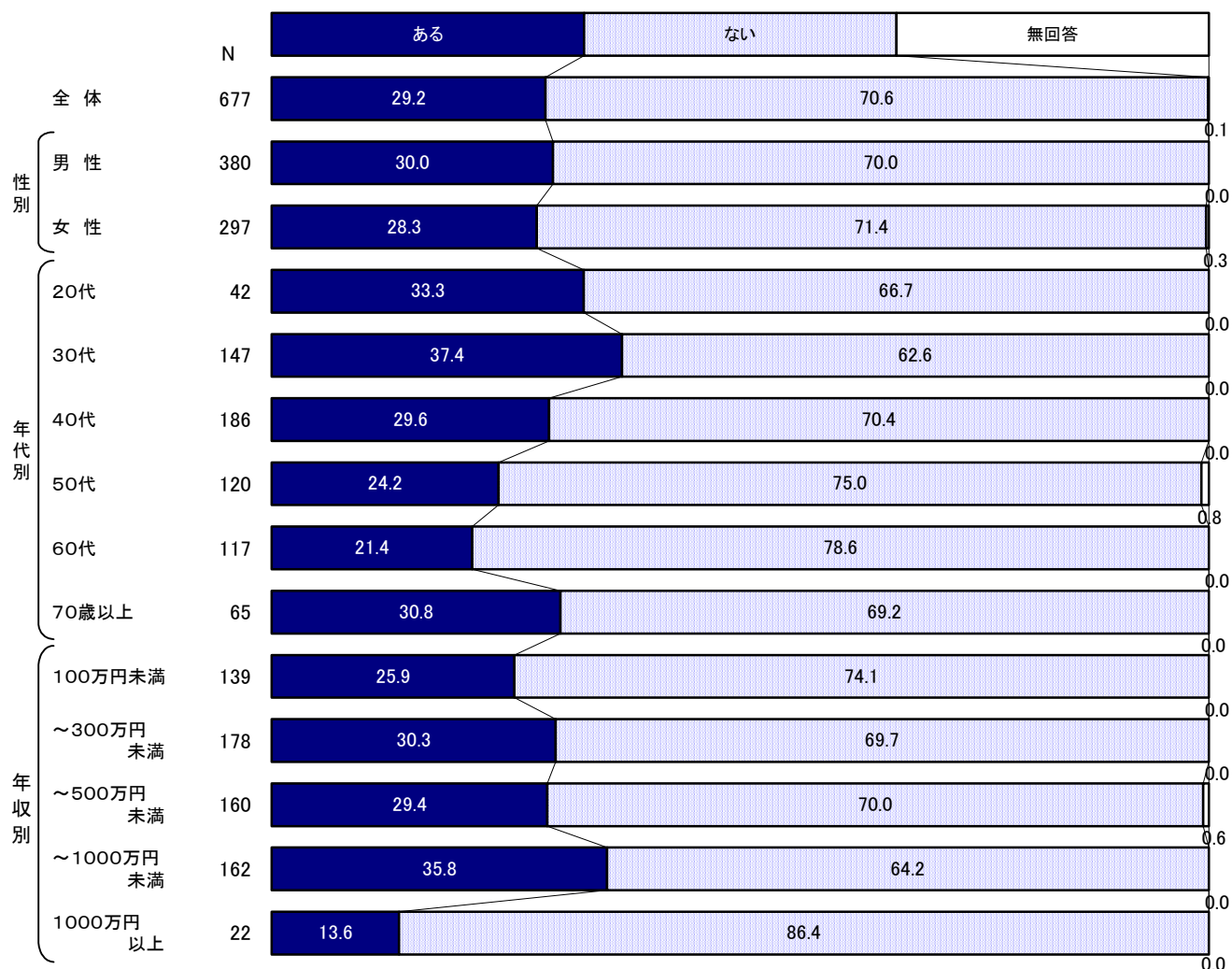
年収別では、「ある」率は「100万円未満」の低年収層が25.9%で最も低く、「～1000万円未満」の層が35.8%で最も高い。

【投資信託の購入意向経験(単数回答)／時系列－保有未経験層ベース】



【投資信託の購入意向経験(単数回答)／基本軸1－保有未経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託の非購入理由〔問 22〕

投資信託保有未経験層に、投資信託を購入しなかった理由を尋ねると、「投資信託がよくわからないので不安」が 55.1%で最も高く、「元本保証がない」が 42.8%で続き、第 3 位以下を引き離している。

時系列で見ると、「投資信託がよくわからないので不安」は減少傾向がみられるが、「元本保証がない」と「株式と同様に値上がり・値下がり激しい」は増加傾向がみられる。

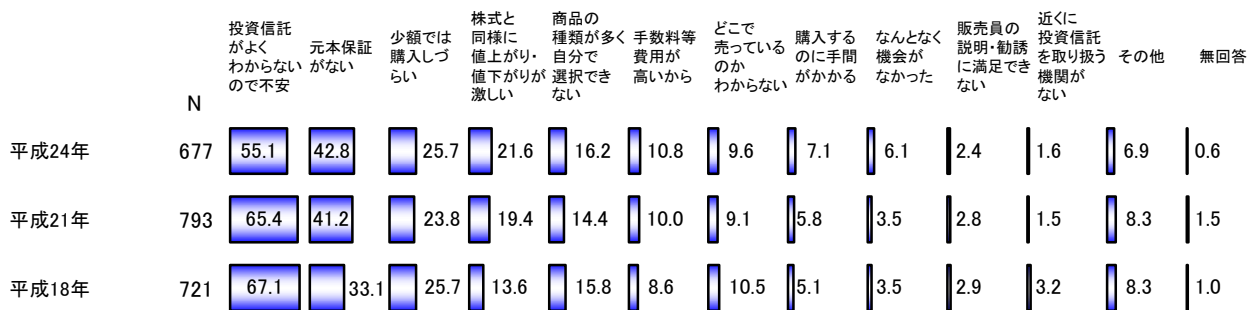
対象者属性別では、性別で見ると、「投資信託がよくわからないので不安」は男性 (46.6%) を女性 (66.0%) が大きく上回っている。

年代別では、「投資信託がよくわからないので不安」は 40 代を中心とした層で高いが、「元本保証がない」は 40 代で 35.5%とやや低い。「株式と同様に値上がり・値下がり激しい」は 50～60 代で高い。

年収別では、「投資信託がよくわからないので不安」は年収が低いほど高い傾向がみられる。「元本保証がない」は「100 万円未満」の低年収層でやや高い。「株式と同様に値上がり・値下がり激しい」は「～500 万円未満」の層でやや低い。「どこで売っているのかわからない」は年収が高いほど低い傾向がややみられる。

保有状況別では、購入意向層は非購入意向または非認知層に比べて、「投資信託がよくわからないので不安」や「どこで売っているのかわからない」は低いが、「少額では購入しづらい」、「商品の種類が多く自分で選択できない」、「購入するのに手間がかかる」は高い。

【投資信託の非購入理由(重複回答)／時系列－保有未経験層ベース】



【投資信託の非購入理由(重複回答)／基本軸1－保有未経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	投資信託がよくわからないので不安	元本保証がない	少額では購入しづらい	株式と同様に値上がり・値下がり値が激しい	商品の種類が多く自分で選択できない	手数料等費用が高いから	どこで売っているのかわからない	購入するのに手間がかかる	なんとなく機会がなかった	販売員の説明・勧誘に満足できない	近くに投資信託を取り扱う機関がない	その他	無回答	
全体	677	55.1	42.8	25.7	21.6	16.2	10.8	9.6	7.1	6.1	2.4	1.6	6.9	0.6	
性別	男性	380	46.6	40.5	26.8	20.5	17.1	12.6	7.9	7.9	6.8	3.2	1.8	9.5	0.5
	女性	297	66.0	45.8	24.2	22.9	15.2	8.4	11.8	6.1	5.1	1.3	1.3	3.7	0.7
年代別	20代	42	54.8	47.6	21.4	16.7	9.5	9.5	9.5	14.3	4.8	0.0	0.0	7.1	0.0
	30代	147	51.7	44.9	25.9	12.2	14.3	14.3	11.6	12.2	4.8	2.0	0.7	6.1	0.0
	40代	186	64.0	35.5	28.0	20.4	15.6	9.1	12.9	6.5	8.6	2.7	1.1	5.4	0.0
	50代	120	59.2	47.5	25.0	29.2	17.5	12.5	6.7	5.8	5.8	2.5	0.8	7.5	0.8
	60代	117	47.0	41.9	20.5	30.8	20.5	8.5	8.5	2.6	5.1	1.7	3.4	11.1	0.9
	70歳以上	65	44.6	49.2	32.3	18.5	16.9	9.2	3.1	3.1	4.6	4.6	4.6	4.6	3.1
	年収別	100万円未満	139	66.9	49.6	25.2	23.0	12.9	10.8	12.2	7.9	2.9	1.4	0.7	3.6
～300万円未満	178	57.3	41.0	30.3	21.3	19.1	7.9	11.8	5.6	5.1	1.1	1.7	6.2	1.1	
～500万円未満	160	51.9	38.1	26.3	15.6	12.5	9.4	8.8	6.3	8.1	3.1	1.9	9.4	0.6	
～1000万円未満	162	45.7	42.6	24.7	24.1	18.5	15.4	4.3	9.3	6.8	4.3	2.5	8.0	0.0	
1000万円以上	22	36.4	50.0	9.1	40.9	22.7	13.6	18.2	4.5	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	

【投資信託の非購入理由(重複回答)／基本軸2－保有未経験層ベース】

	N	投資信託がよくわからないので不安	元本保証がない	少額では購入しづらい	株式と同様に値上がり・値下がり値が激しい	商品の種類が多く自分で選択できない	手数料等費用が高いから	どこで売っているのかわからない	購入するのに手間がかかる	なんとなく機会がなかった	販売員の説明・勧誘に満足できない	近くに投資信託を取り扱う機関がない	その他	無回答	
全体	677	55.1	42.8	25.7	21.6	16.2	10.8	9.6	7.1	6.1	2.4	1.6	6.9	0.6	
(保有未経験者層のみ) 保有状況別	保有未経験・購入意向層	198	41.4	44.9	39.4	20.7	26.3	13.6	5.6	12.1	4.0	3.0	4.0	6.1	0.0
	非購入意向または非認知層	479	60.8	42.0	20.0	21.9	12.1	9.6	11.3	5.0	6.9	2.1	0.6	7.3	0.8

(3) 投資信託を購入検討するきっかけ〔問 23〕

投資信託保有未経験層に、投資信託についてどのようなきっかけがあれば購入を検討すると思うかを尋ねると、「金融や投資を勉強して理解できたら」が36.6%で最も高い。以下、「セミナーなど仕組みを説明してもらえる機会があったら」(23.9%)、「今後、成長が期待できる投資対象があったら」(23.6%)、「退職金・相続などの臨時収入があったら」(23.0%)、「手取り収入が増えたら」(20.1%)の順に続く。

対象者属性別では、性別でみると、男性の方が「貯蓄が一定額に達したら」はやや高いが、女性の方が「金融や投資を勉強して理解できたら」、「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」はやや高い。

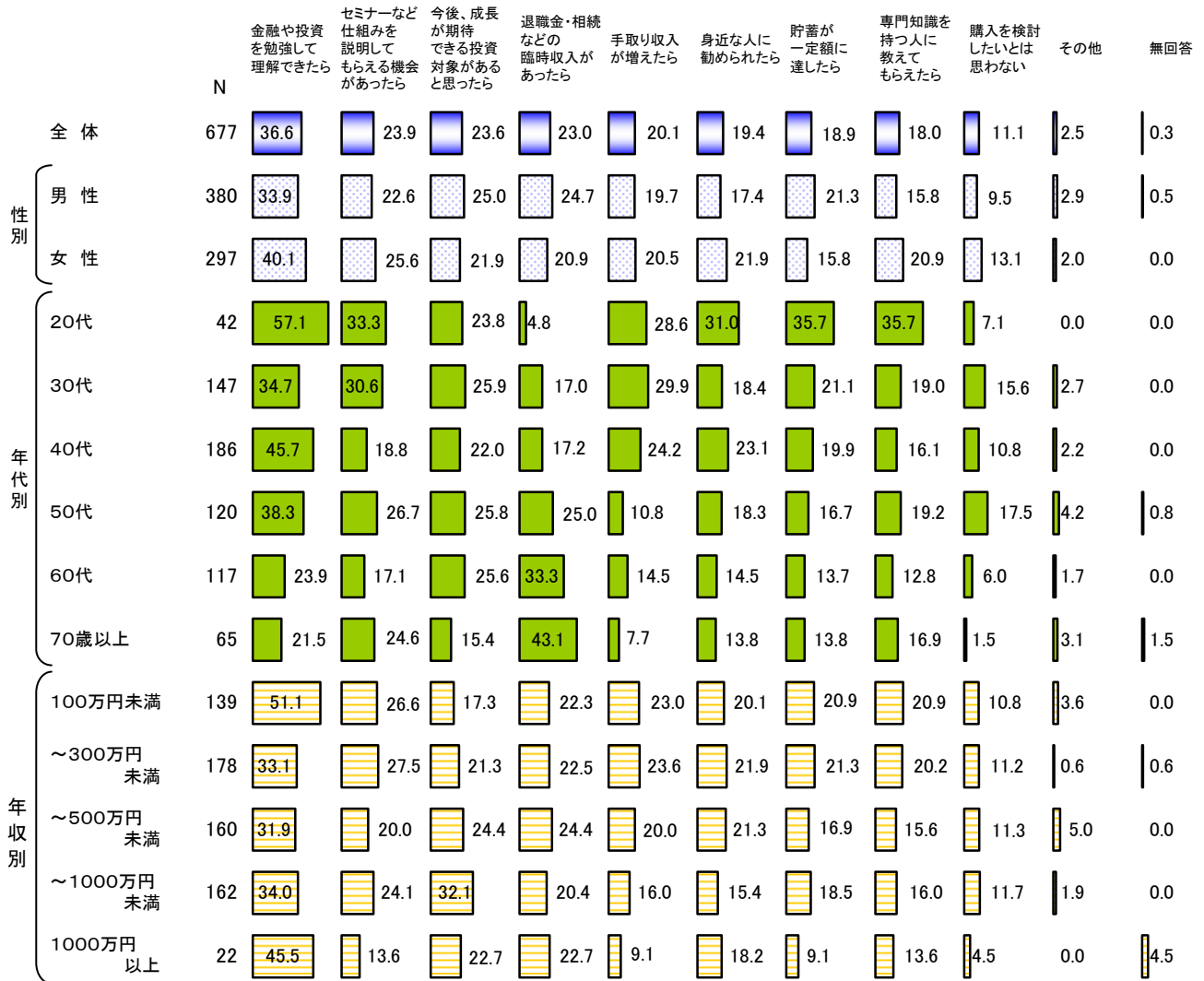
年代別では、「退職金・相続などの臨時収入があったら」は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられるが、「手取り収入が増えたら」は若年層の方が高い。20代は他にも「金融や投資を勉強して理解できたら」、「身近な人に勧められたら」、「貯蓄が一定額に達したら」、「専門知識を持つ人に教えてもらえたら」などもやや高く、多様な可能性が期待される。一方、60代以上の高年齢層では「退職金・相続などの臨時収入があったら」がトップであり、他のきっかけはあまり有効ではないようである。

年収別では、「金融や投資を勉強して理解できたら」は「100万円未満」の低年収層で特に高い。「今後、成長が期待できる投資対象があると思ったら」は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられるが、「手取り年収が増えたら」は年収が低い層ほどやや高い。

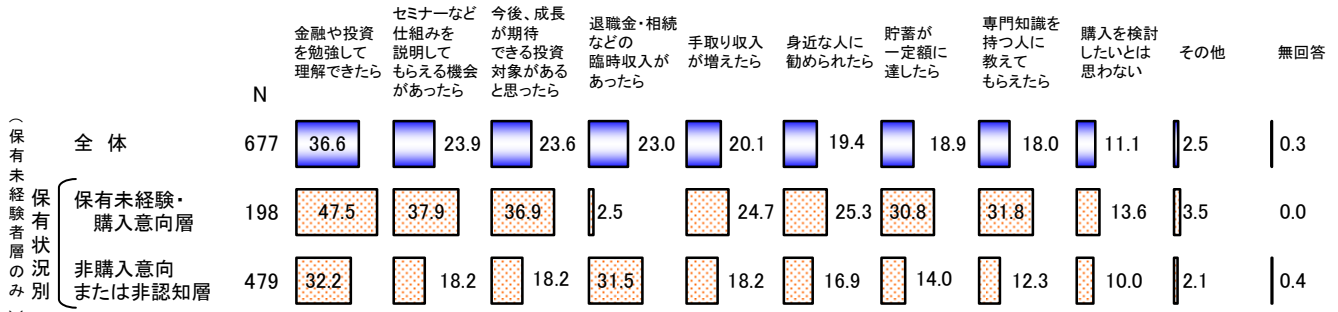
保有状況別では、購入意向層は非購入意向または非認知層に比べて、「退職金・相続などの臨時収入があったら」を除くほとんどの項目で高く、可能性の高さがうかがえる。非購入意向または非認知層が購入意向層を上回っているのは「退職金・相続などの臨時収入があったら」のみである。

【投資信託購入検討するきっかけ（重複回答）／基本軸1－保有未経験層ベース】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託購入検討するきっかけ（重複回答）／基本軸2－保有未経験層ベース】



7. 投資信託への期待・関心状況(回答者全体)

(1) 資産運用方針〔問 24〕

今後の資産運用について最優先する考えとしては、「元本が保証されていること」が最も高く、54.1%と過半数を占めている。次いで、「値上がり期待」(15.4%)、「利回り」(13.3%)の順に続く。

時系列でみると、「値上がり期待」は増加傾向がみられるのに対し、「利回り」は減少傾向がみられる。この結果、今回は平成21年の調査結果に比べ、両者の順位が逆転している。「少額でも出し入れ自由」も平成21年の調査結果と比べると6.0ポイント低くなっている。

対象者属性別では、性別でみると、「元本が保証されていること」を優先する率は男性(45.2%)より女性(64.5%)の方が高い。男性が高いのは「利回り」と「値上がり期待」であり、女性に比べ利益を優先する人が多い。

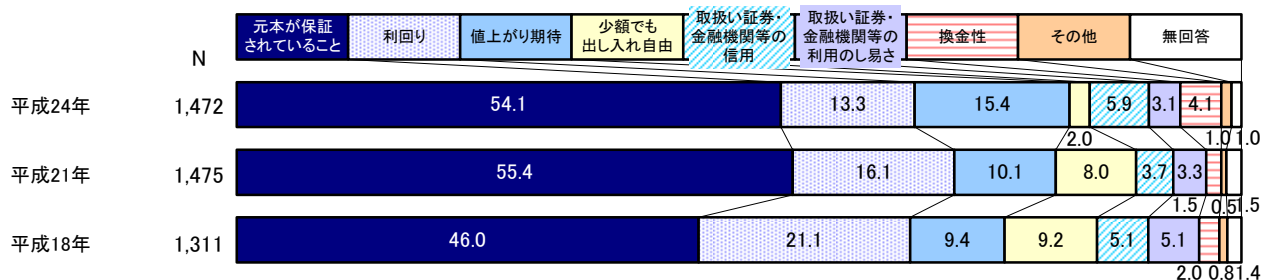
年代別では、「利回り」を優先する率は20代(23.3%)と50代(17.8%)でやや高く、これらの層では「利回り」が「値上がり期待」を上回っている。

年収別では、「元本が保証されていること」は「100万円未満」の低年収層では67.0%と高いが、年収が上がるにつれ低くなる傾向がみられ、「1000万円以上」の高年収層では42.9%に過ぎない。一方、「利回り」や「値上がり期待」は高年収層ほど高くなっている。

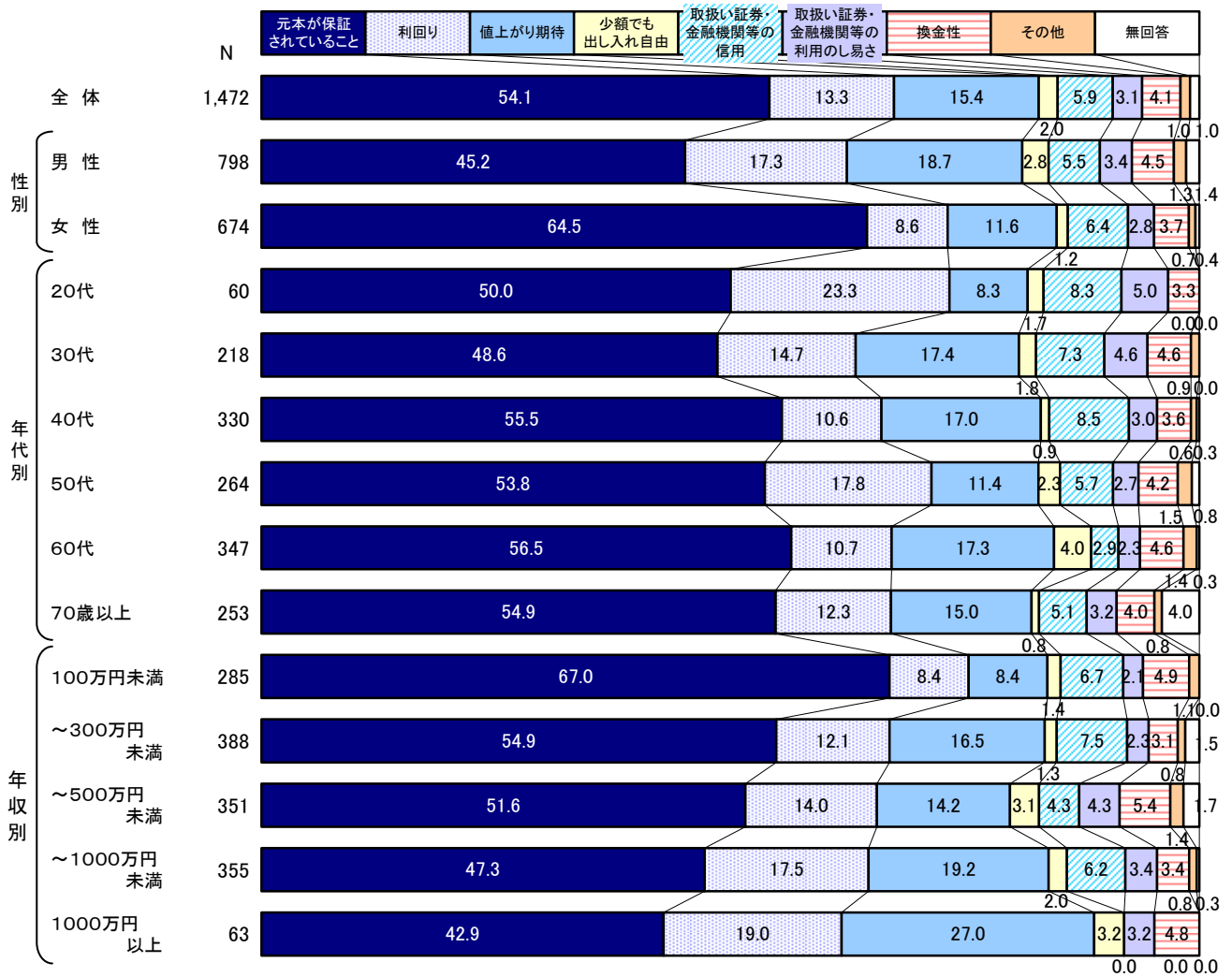
投資信託保有状況別では、「元本が保証されていること」を優先する率は非購入意向または非認知層(59.0%)と、保有経験層(57.2%)が他2層に比べ高い。「値上がり期待」を優先する率は現在保有層で21.9%と高いが、非購入意向または非認知層は9.4%と低い。「取り扱い証券・金融機関等の信用」を優先する率は現在保有層より保有経験層、保有経験層より保有未経験層の方が高くなる傾向がみられる。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「値上がり期待」が高い。公社債投資信託のみ保有層は他2層に比べ「元本が保証されていること」を優先する率が高い。

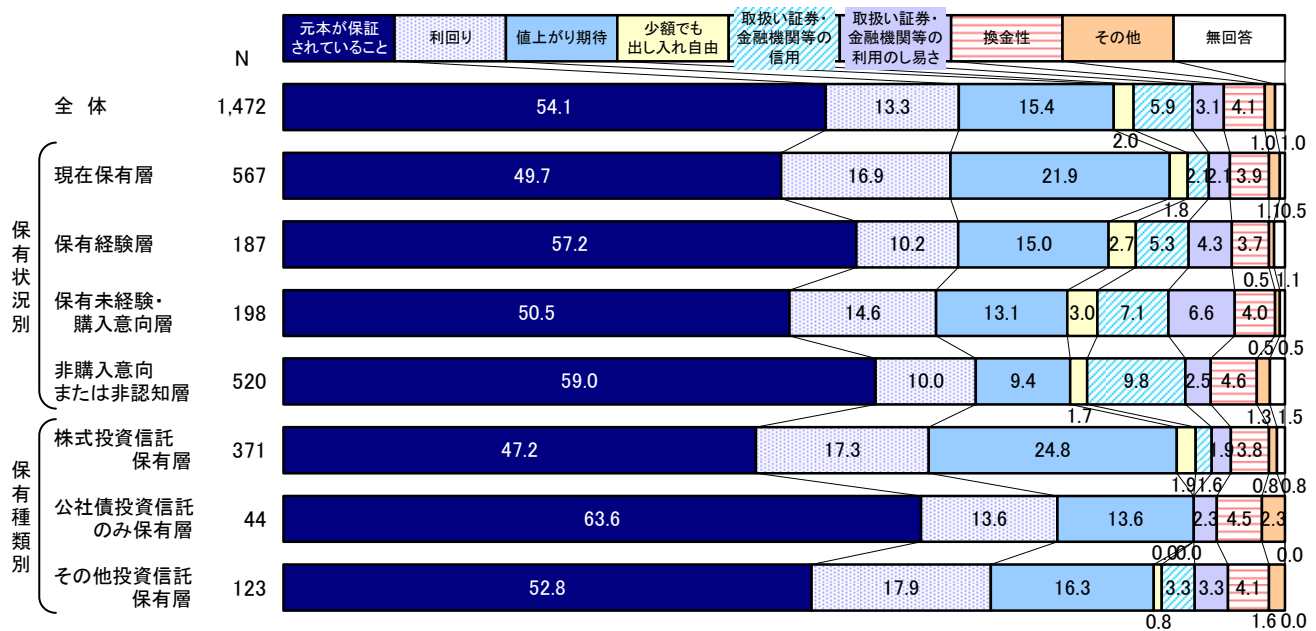
【資産運用方針(単数回答)／時系列】



【資産運用方針(単数回答)／基本軸1】



【資産運用方針(単数回答)／基本軸2】



(2) 現在保有している金融商品と今後購入対象として考えている金融商品〔問 26、問 28〕

① 現在保有している金融商品

現在保有している金融商品は、「普通預貯金」が 80.4%で最も高い。次いで「定期預金」(52.7%)、「ゆうちょ銀行の定額貯金」(48.2%)の順に高い。「株式」は 43.8%、「国内の投資信託」は 33.1%、「国債・公債・社債・転換社債」は 17.1%、「外国で作られた投資信託」は 16.7%が保有している。なお、「貯蓄型保険」も 20.9%で比較的高い。

時系列でみると、「国内の投資信託」と「外国で作られた投資信託」、「外貨預金」は増加傾向がみられる。一方、「普通預貯金」、「ゆうちょ銀行の定額貯金」、「貯蓄型保険」の保有率は減少傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、「株式」は男性(51.6%)の方が女性(34.4%)より保有率が高いが、女性の方が「普通預貯金」、「ゆうちょ銀行の定額貯金」、「貯蓄型保険」の保有率は高い。

年代別では、「普通預貯金」以外の金融商品の保有率は年代が上がるにつれ高くなる商品が多く、高年齢層ほど多様な金融商品を保有している様子が見られる。ただし、70歳以上は60代に比べ「普通預貯金」、「貯蓄型保険」の保有率は低下している。「財形貯蓄」、「外貨預金」保有率は60代以上の高年齢層で、50代以下に比べて低い。

年収別では、「株式」の保有率は年収が上がるにつれて高くなる傾向が見られ、1000万円以上の高年収層では76.2%にのぼる。またこの層は「定期預金」(81.0%)や「国内の投資信託」(49.2%)の保有率も他の層に比べ高い。「財形貯蓄」保有率も年収が上がるにつれ高くなっている。

投資信託保有状況別では、現在保有層は「国内の投資信託」を85.9%が、「外国で作られた投資信託」を43.4%が保有している。現在保有層・保有経験層は多様な商品を保有している様子が見られる。「財形貯蓄」の保有率は保有未経験・購入意向層が21.7%と高いが、保有経験層では7.5%と低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べて「株式」保有率が高い。公社債投資信託のみ保有層は「国債・公債・社債・転換社債」と「ゆうちょ銀行の定額貯金」の保有率がやや高い。その他投資信託保有層は他2層に比べ「外国で作られた投資信託」保有率が高いが、「国内の投資信託」、「普通預貯金」、「定期預金」の保有率は低い。

【現在保有している金融商品(重複回答)／時系列】

	N	普通 預貯金	定期 預金	ゆうちょ 銀行の 定額 貯金	株式	国内の 投資 信託	貯蓄型 保険	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外国で 作られ た 投資 信託	財形 貯蓄	外貨 預金	外国 債券	変額 年金	金貯蓄 口座	外国 為替 証拠金 取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
平成24年	1,472	80.4	52.7	48.2	43.8	33.1	20.9	17.1	16.7	14.6	12.4	6.3	4.6	2.7	1.6	0.5	0.0	1.7	2.4
平成21年	1,475	84.5	54.0	49.6	40.3	29.8	21.1	19.3	14.8	12.7	8.7	3.5	4.4	2.6	0.0	0.5	0.1	1.1	1.4
平成18年	1,311	88.1	51.8	56.9	42.4	27.9	25.6	17.1	8.8	17.2	7.6	6.6	3.7	2.5	0.0	1.2	-	1.1	1.4

*平成21年より「ラップ口座・SMA」の選択肢が追加されている

【現在保有している金融商品(重複回答)／基本軸1】

	N	普通 預貯金	定期 預金	ゆうちょ 銀行の 定額 貯金	株式	国内の 投資 信託	貯蓄型 保険	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外国で 作られ た投 資信託	財形 貯蓄	外貨 預金	外国 債券	変額 年金	金貯蓄 口座	外国 為替 証拠金 取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
性別																			
全体	1,472	80.4	52.7	48.2	43.8	33.1	20.9	17.1	16.7	14.6	12.4	6.3	4.6	2.7	1.6	0.5	0.0	1.7	2.4
男性	798	77.4	51.0	42.1	51.6	31.7	16.0	15.3	16.5	16.3	12.3	5.1	3.6	3.1	2.4	0.5	0.0	1.9	3.3
女性	674	83.8	54.7	55.3	34.4	34.7	26.6	19.1	16.9	12.6	12.5	7.7	5.6	2.2	0.6	0.6	0.0	1.5	1.5
年代別																			
20代	60	85.0	35.0	31.7	23.3	13.3	8.3	3.3	3.3	25.0	10.0	1.7	1.7	0.0	1.7	0.0	0.0	3.3	3.3
30代	218	79.4	45.4	40.8	32.6	20.2	18.8	7.8	11.5	17.9	13.3	3.7	3.7	3.2	2.8	0.0	0.0	1.4	3.7
40代	330	83.3	48.5	45.8	37.3	27.3	17.6	10.9	13.0	24.5	13.6	3.9	3.9	3.9	1.5	0.3	0.0	1.5	2.1
50代	264	85.2	63.3	52.7	46.6	33.0	25.4	17.4	17.4	18.6	15.9	5.7	6.8	1.9	2.3	0.0	0.0	1.1	1.9
60代	347	80.7	56.8	53.6	50.4	43.8	26.2	24.5	19.6	6.3	10.7	8.6	5.8	2.9	1.4	1.2	0.0	2.3	1.7
70歳以上	253	70.8	52.2	49.4	54.5	41.9	17.8	25.7	24.5	3.6	9.1	10.3	2.8	2.0	0.0	1.2	0.0	1.6	3.2
年収別																			
100万円未満	285	83.9	53.3	54.4	31.2	31.6	17.2	20.0	16.1	8.1	10.9	6.0	3.9	1.1	0.7	0.0	0.0	1.8	2.1
～300万円 未満	388	76.8	46.6	50.0	36.1	31.4	23.2	15.5	18.6	7.0	8.5	7.7	5.2	1.5	1.0	0.5	0.0	0.8	4.1
～500万円 未満	351	80.1	51.6	45.0	46.7	31.3	17.9	18.5	13.1	14.5	12.5	5.7	2.3	3.1	1.1	0.9	0.0	1.7	2.3
～1000万円 未満	355	82.0	54.6	44.8	54.1	35.5	23.4	15.2	18.3	26.5	17.2	5.6	6.2	4.2	2.8	0.6	0.0	2.0	1.7
1000万円 以上	63	79.4	81.0	49.2	76.2	49.2	27.0	22.2	22.2	28.6	19.0	9.5	6.3	6.3	3.2	1.6	0.0	6.3	0.0

【現在保有している金融商品(重複回答)／基本軸2】

	N	普通 預貯金	定期 預金	ゆうちょ 銀行の 定額 貯金	株式	国内の 投資 信託	貯蓄型 保険	国債・ 公債・ 社債・ 転換 社債	外国で 作られ た投 資信託	財形 貯蓄	外貨 預金	外国 債券	変額 年金	金貯蓄 口座	外国 為替 証拠金 取引 (FX)	利付・ 割引 金融債	ラップ 口座・ SMA	その他	無回答
保有状況別																			
全体	1,472	80.4	52.7	48.2	43.8	33.1	20.9	17.1	16.7	14.6	12.4	6.3	4.6	2.7	1.6	0.5	0.0	1.7	2.4
現在保有層	567	79.2	56.6	51.1	50.8	85.9	24.2	27.3	43.4	13.9	19.2	14.1	5.3	4.4	1.9	0.9	0.0	2.1	0.2
保有経験層	187	74.9	53.5	55.1	51.3	0.0	18.2	21.4	0.0	7.5	12.8	2.7	8.0	3.2	2.1	0.5	0.0	1.6	6.4
保有未経験・ 購入意向層	198	82.8	52.0	43.4	31.8	0.0	23.2	9.6	0.0	21.7	10.6	1.0	6.1	2.5	1.0	0.0	0.0	1.5	3.5
非購入意向 または非認知層	520	82.7	48.5	44.2	37.9	0.0	17.3	7.1	0.0	15.2	5.4	1.2	1.9	0.8	1.2	0.4	0.0	1.3	3.1
保有種類別																			
株式投資信託 保有層	371	83.3	59.6	49.9	57.7	99.5	23.7	28.0	34.0	14.8	18.3	14.6	5.7	4.0	2.2	0.8	0.0	1.9	0.0
公社債投資信託 のみ保有層	44	77.3	59.1	61.4	34.1	100.0	13.6	45.5	9.1	15.9	11.4	2.3	2.3	2.3	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0
その他投資信託 保有層	123	70.7	45.5	52.0	36.6	48.0	26.0	20.3	86.2	10.6	22.8	17.1	4.9	6.5	0.8	0.8	0.0	2.4	0.0

② 今後購入対象として考えている金融商品

今後購入対象として考えている金融商品としては、「定期預金」が40.6%で最も高いが、「普通預貯金」(37.7%)や「ゆうちょ銀行の定額貯金」(34.6%)、「株式」(31.1%)も僅差で続く。「国債・公債・社債・転換社債」は16.4%、「国内の投資信託」は14.0%、「外貨預金」は10.2%であり、他の金融商品は10%に満たない。より安全性の高い商品が選択される一方、投資商品の中では株式が考えられていることがうかがえる。

平成21年の調査結果に比べ「定期預金」は11.7ポイント、「普通預貯金」は8.9ポイント低くなった。時系列でみると、「ゆうちょ銀行の定額貯金」、「貯蓄型保険」、「財形貯蓄」も減少傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、「定期預金」、「普通預貯金」、「ゆうちょ銀行の定額貯金」は男性より女性の方が高いが、「株式」は男性(40.2%)が女性(20.3%)を大きく上回る。「国内の投資信託」、「外貨預金」も男性の方がやや高く、男性の方が元本保証のない金融商品も考えていることがわかる。

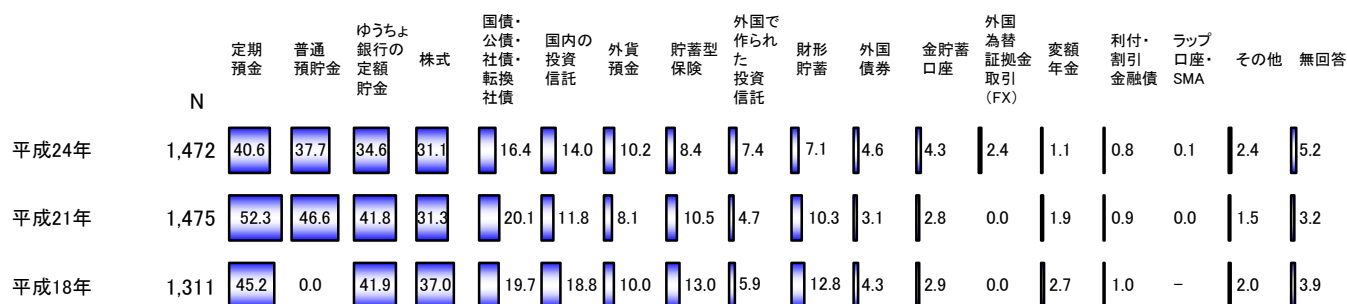
年代別では、「定期預金」は50代を中心とした層でやや高い。「ゆうちょ銀行の定額貯金」は若年層ではやや低く、「国債・公債・社債・転換社債」は60代以上の高年齢層でやや高い。「貯蓄型保険」は40代を中心とした層でやや高い。

年収別では、「普通預貯金」や「ゆうちょ銀行の定額貯金」は年収が低い層ほど高い傾向がみられるが、「株式」は逆に年収が高い層ほど高くなる。「1000万円以上」の高年収層では「国内の投資信託」、「外国で作られた投資信託」、「財形貯蓄」も他の層に比べて高い。

投資信託保有状況別では、「国内の投資信託」は現在保有層が25.7%と最も高いが、保有未経験・購入意向層も19.7%と高い。「外国で作られた投資信託」も現在保有層が15.7%で最も高い。一方、「株式」は保有未経験・購入意向層が41.4%で最も高く、保有経験層(33.7%)や現在保有層(29.1%)を上回っている。保有未経験・購入意向層は「外貨預金」も他の層より高く、多様な商品を考えていることがうかがえる。「国債・公債・社債・転換社債」は非購入意向または非認知層では10.8%と低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「定期預金」と「国内の投資信託」は他2層に比べて高く、公社債投資信託のみ保有層は「国債・公債・社債・転換社債」がやや高い。その他投資信託保有層は他2層に比べ「外国で作られた投資信託」が高いが、「定期預金」、「株式」を考える率はやや低い。

【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／時系列】



*平成21年より「普通預貯金」、「ラップ口座・SMA」の選択肢が追加されている

【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／基本軸1】

	N	定期預金	普通預貯金	ゆうちょ銀行の定額貯金	株式	国債・公債・社債・転換社債	国内の投資信託	外貨預金	貯蓄型保険	外国で作られた投資信託	財形貯蓄	外国債券	金貯蓄口座	外国為替証拠金取引(FX)	変額年金	利付・割引金融債	ラップ口座・SMA	その他	無回答
全体	1,472	40.6	37.7	34.6	31.1	16.4	14.0	10.2	8.4	7.4	7.1	4.6	4.3	2.4	1.1	0.8	0.1	2.4	5.2
性別																			
男性	798	34.8	33.7	28.8	40.2	18.3	18.4	12.8	6.4	9.0	7.1	6.1	5.5	3.5	1.1	1.1	0.3	2.1	5.0
女性	674	47.3	42.4	41.4	20.3	14.2	8.8	7.1	10.7	5.5	7.0	2.7	3.0	1.0	1.0	0.4	0.0	2.7	5.5
年代別																			
20代	60	38.3	36.7	28.3	36.7	11.7	18.3	15.0	5.0	8.3	16.7	1.7	0.0	6.7	1.7	0.0	0.0	0.0	3.3
30代	218	38.1	34.4	28.0	32.1	16.5	15.6	11.5	9.6	8.3	11.5	5.5	4.6	2.8	1.4	0.0	0.0	2.3	4.1
40代	330	40.9	38.2	32.7	29.1	12.4	14.5	13.6	11.2	6.1	10.9	4.8	5.8	3.3	1.5	0.9	0.3	2.1	6.1
50代	264	48.5	35.6	37.1	31.1	12.5	12.9	12.5	10.6	8.0	8.3	4.5	5.3	2.7	1.5	0.8	0.4	0.8	3.4
60代	347	40.3	38.3	38.9	30.8	21.0	14.1	6.1	6.9	7.2	2.0	4.9	3.7	1.4	0.6	1.2	0.0	4.0	4.6
70歳以上	253	34.8	41.5	35.6	32.0	20.6	11.9	6.7	4.0	7.9	1.6	3.6	3.2	0.8	0.4	1.2	0.0	2.8	8.3
年収別																			
100万円未満	285	45.6	41.8	42.5	22.5	14.7	7.4	5.6	8.4	4.6	4.9	1.8	2.5	2.5	1.4	0.0	0.0	2.8	5.6
～300万円未満	388	38.1	40.7	38.9	22.4	17.0	11.9	5.9	9.8	7.0	5.9	3.1	3.1	1.3	1.3	0.8	0.0	1.5	7.7
～500万円未満	351	38.2	37.3	30.5	34.8	14.5	15.7	11.7	8.0	7.1	5.4	6.0	4.3	1.7	1.1	0.9	0.0	3.1	3.7
～1000万円未満	355	40.8	34.6	29.6	43.7	18.3	18.3	16.3	7.9	8.2	9.9	6.5	7.0	3.9	0.3	1.4	0.6	1.7	4.2
1000万円以上	63	44.4	20.6	23.8	38.1	23.8	28.6	17.5	6.3	22.2	19.0	9.5	6.3	3.2	3.2	1.6	0.0	4.8	1.6

【今後購入対象として考えている金融商品(重複回答)／基本軸2】

	N	定期預金	普通預貯金	ゆうちょ銀行の定額貯金	株式	国債・公債・社債・転換社債	国内の投資信託	外貨預金	貯蓄型保険	外国で作られた投資信託	財形貯蓄	外国債券	金貯蓄口座	外国為替証拠金取引(FX)	変額年金	利付・割引金融債	ラップ口座・SMA	その他	無回答
全体	1,472	40.6	37.7	34.6	31.1	16.4	14.0	10.2	8.4	7.4	7.1	4.6	4.3	2.4	1.1	0.8	0.1	2.4	5.2
保有状況別																			
現在保有層	567	40.6	32.8	33.5	29.1	19.6	25.7	10.6	6.7	15.7	4.9	8.1	4.2	1.8	0.7	0.7	0.0	3.2	4.2
保有経験層	187	39.0	36.9	38.0	33.7	19.3	5.9	11.2	10.7	3.2	7.0	2.7	8.0	3.7	1.6	1.6	0.0	2.1	8.0
保有未経験・購入意向層	198	42.9	36.9	31.8	41.4	19.7	19.7	17.7	12.6	6.1	7.6	3.5	8.6	3.0	2.5	0.5	0.5	0.5	4.0
非購入意向または非認知層	520	40.2	43.7	35.6	28.5	10.8	1.9	6.5	7.7	0.4	9.2	1.7	1.5	2.3	0.8	0.8	0.2	2.3	5.8
保有種類別																			
株式投資信託保有層	371	44.5	33.4	33.2	31.3	20.8	29.6	10.0	7.3	13.5	5.4	8.1	3.8	1.6	0.5	0.8	0.0	2.4	3.5
公社債投資信託のみ保有層	44	38.6	36.4	36.4	27.3	31.8	18.2	4.5	4.5	2.3	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	2.3
その他投資信託保有層	123	30.1	29.3	33.3	23.6	13.0	17.9	11.4	7.3	23.6	4.1	10.6	5.7	2.4	1.6	0.8	0.0	4.1	7.3

(3) 資産運用について、知人・友人、会社等で話題〔問 25〕

資産運用について、知人・友人、会社等で話題になる程度を尋ねたところ、「よく話題になる」は2.8%のみであるが、「たまに話題になる」が34.7%であり、これらを合わせた“話題になる率”は37.5%である。一方、「話題になることはない」は49.2%と半数を占める。

対象者属性別では、性別にみても大きな差はみられない。

年代別では、“話題になる率”は40代が32.1%と他の年代層に比べやや低い。

年収別では、“話題になる率”は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

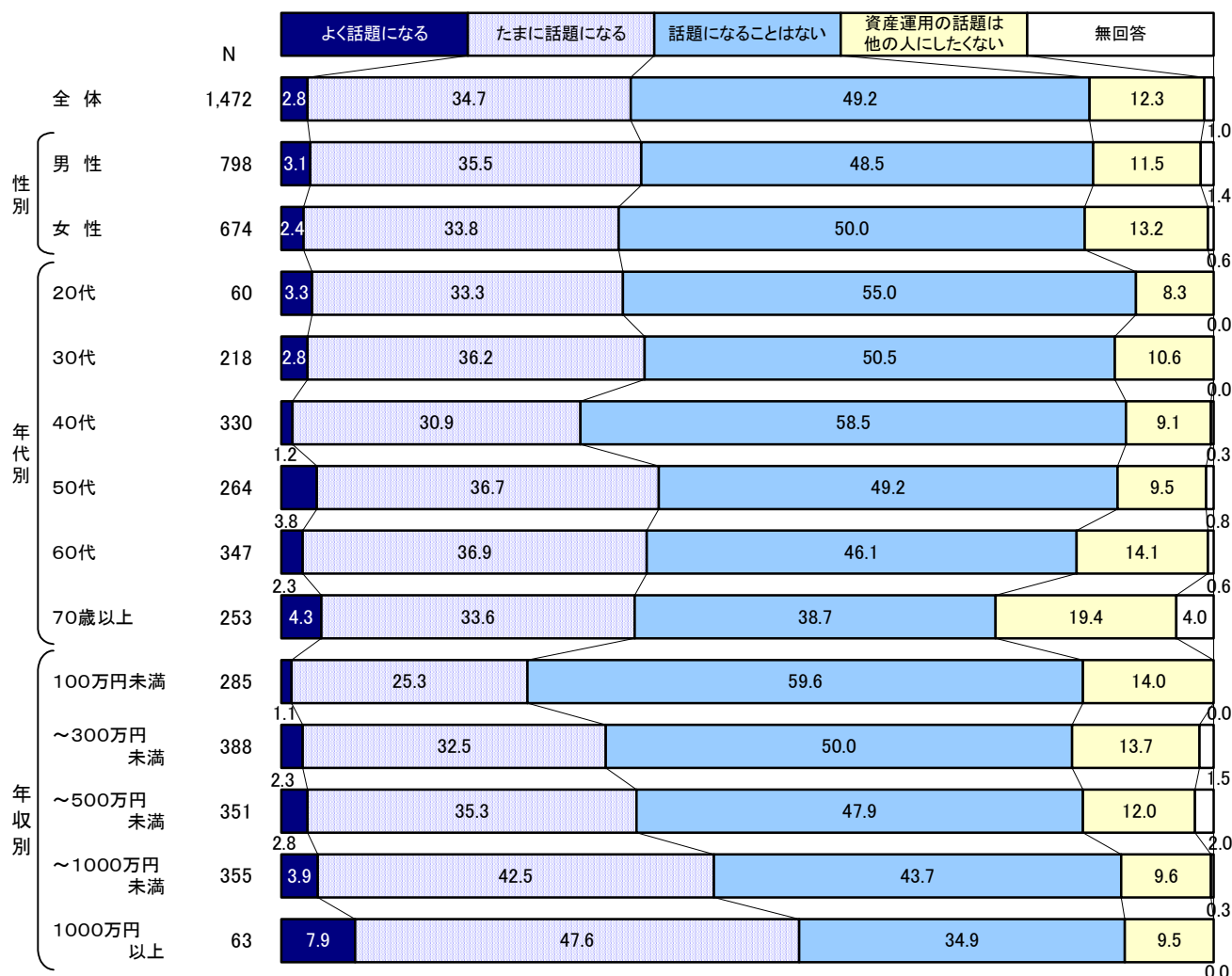
投資信託保有状況別では、“話題になる率”は保有経験層が49.7%で最も高い。保有未経験・購入意向層も44.4%とやや高いが、非購入意向または非認知層は26.9%で特に低い。

投資信託保有種類別では、“話題になる率”に大きな差はみられない。

地域別では、“話題になる率”は近畿が43.7%で最も高く、北海道・東北が26.6%で最も低い。

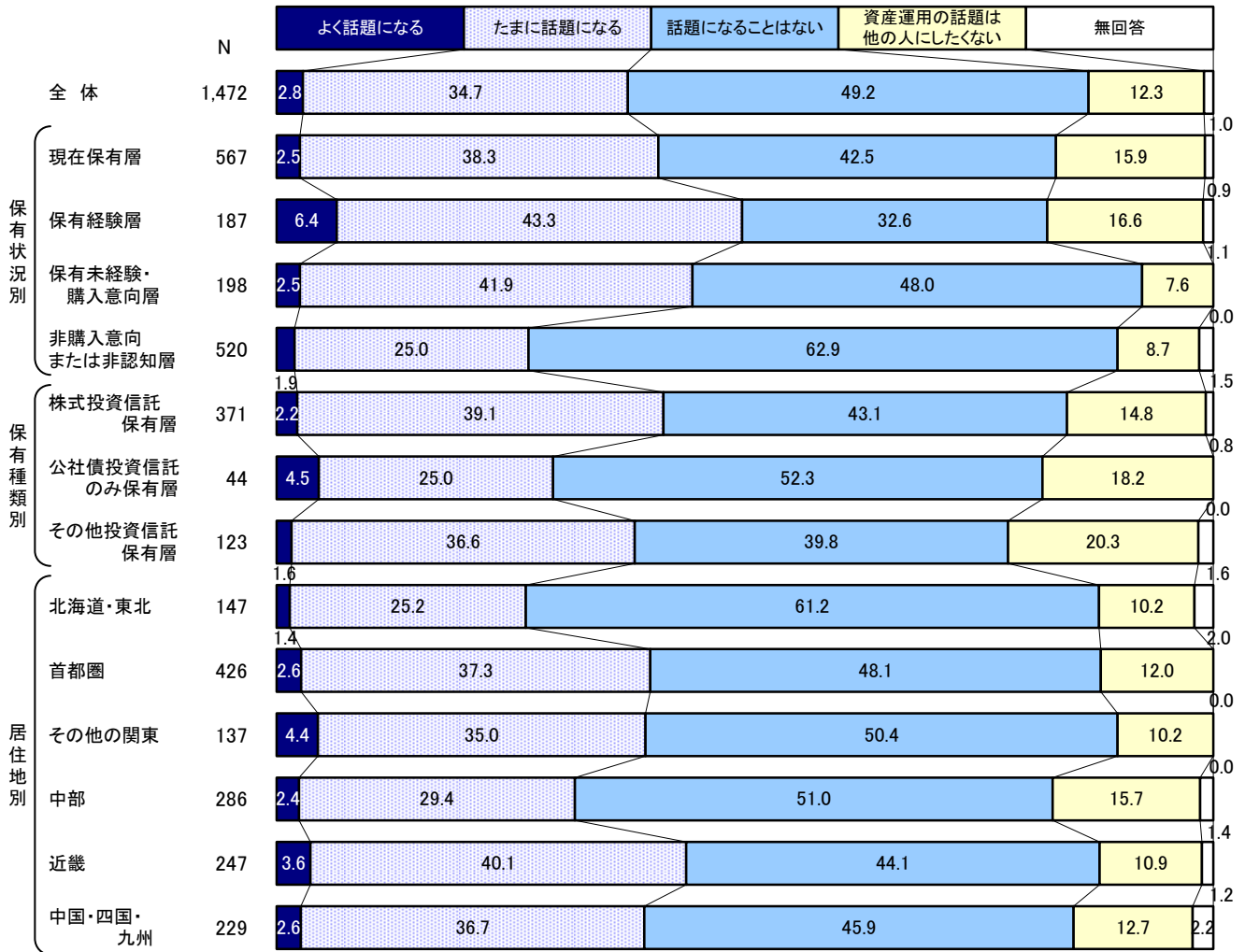
【資産運用について、知人・友人、会社等で話題（単数回答）／基本軸1】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【資産運用について、知人・友人、会社等で話題（単数回答）／基本軸2】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(4) 希望する投資信託商品とその詳細(投資信託関心者)〔問 28-1～問 28-5〕

① 今後購入を考える投資信託の商品内容

今後購入を考えている金融商品として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、投資信託への新規投資、または追加投資(増額)を考える場合の商品内容について尋ねたところ、「安定した利回り为目标とするもの」が最も高く、43.4%と半数近くを占めている。次いで、「極力元本が安全であるもの」が27.1%で高い。「比較的高い分配が期待できるもの」(14.3%)と「値上がりの期待が持てるもの」(14.0%)はほぼ同程度となっている。

時系列でみると、選択肢の表現を変えたため、厳密には比較できないが、平成21年までは「安定重視型」が過半数を占めていたが、今回「極力元本が安全であるもの」は半数ほどに減っており、一般的にリスクを受け入れる人が大幅に増えている。

対象者属性別では、性別にみても大きな差はみられない。

年代別では、「極力元本が安全であるもの」を考える率は50代以下に比べ60代以上でやや高い。一方、「安定した利回り为目标とするもの」を考える率は30代で55.0%とやや高いが、60代では33.9%とやや低い。

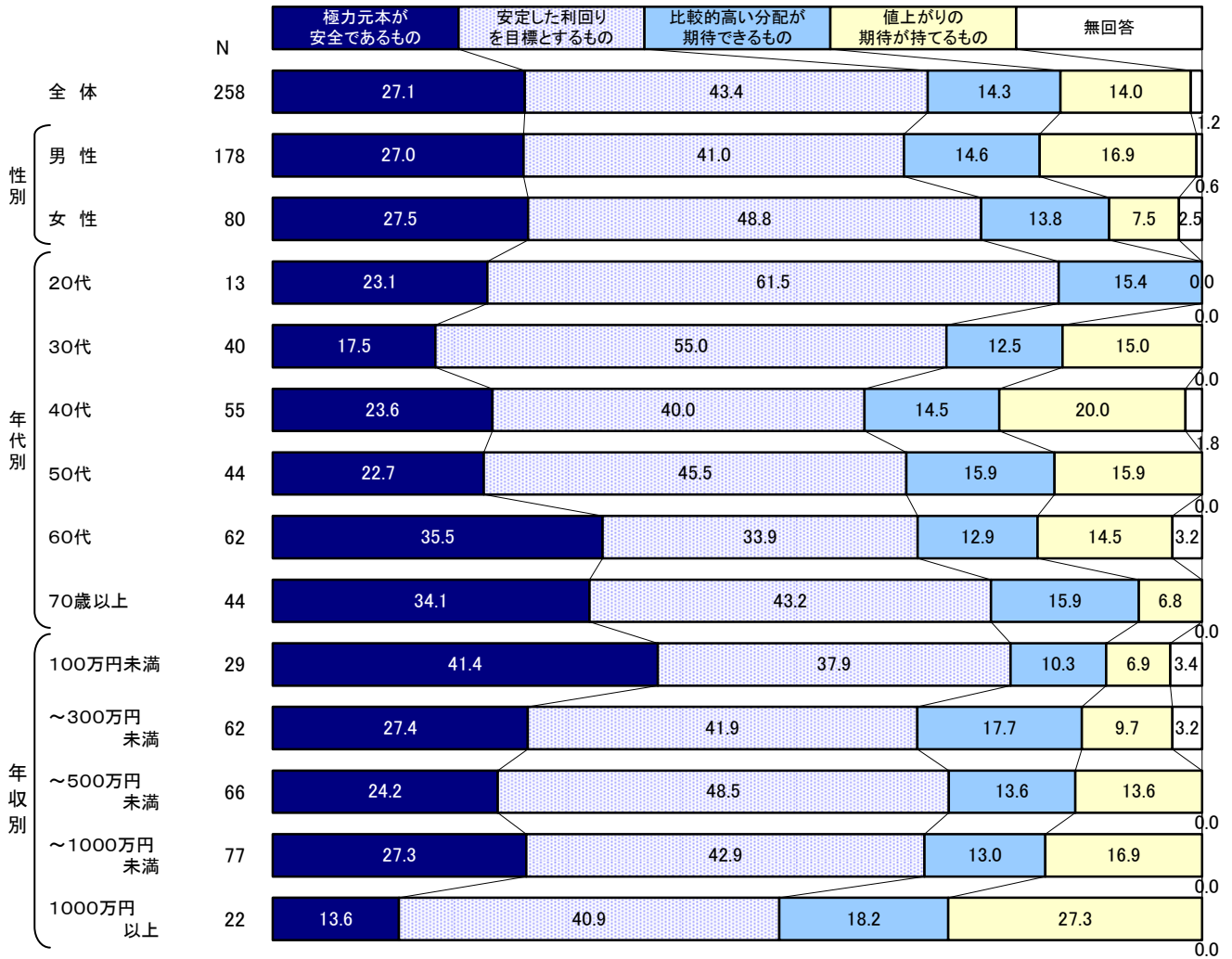
年収別については、大きな差はみられない。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有未経験・購入意向層には大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べ「安定した利回り为目标とするもの」を考える率が高いが、「比較的高い分配が期待できるもの」を考える率は低い。

【今後購入を考慮する投資信託の商品内容(単数回答)／基本軸1－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

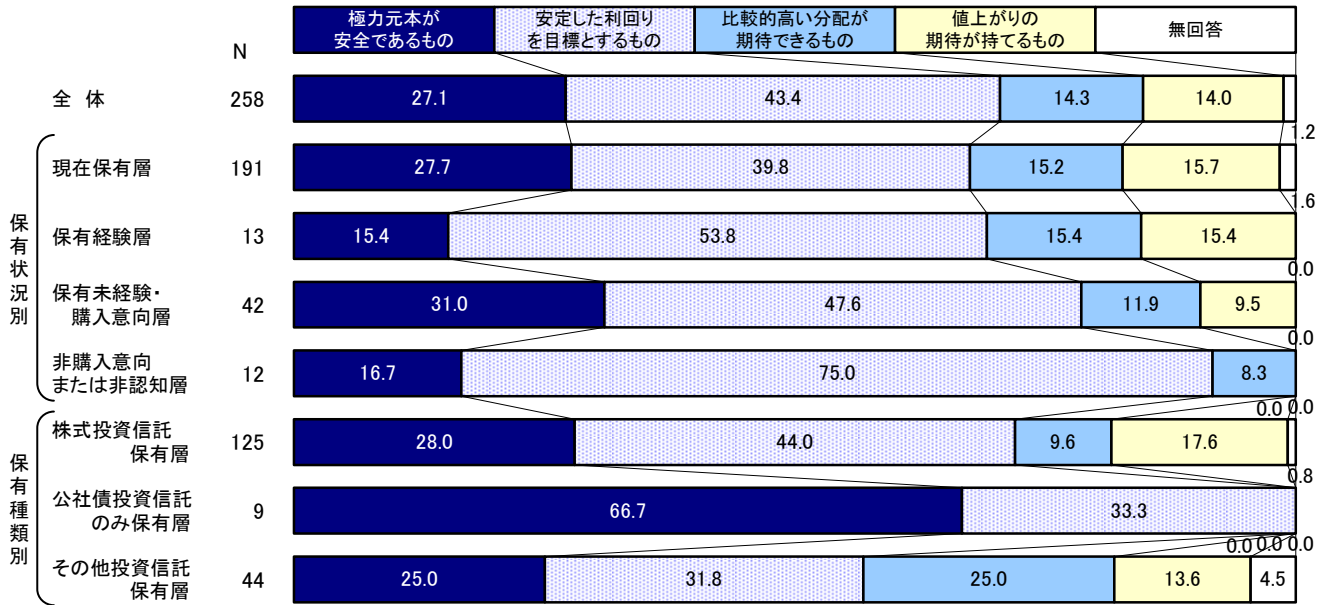


【参考：平成21年、18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	安定重視型	利回り追求型	値上がり益追求型	積極値上がり益追求型	無回答
平成21年	207	61.4	17.9	17.4	2.4	1.0
平成18年	284	61.3	21.8	13.4	2.8	0.7

【今後購入を考える投資信託の商品内容(単数回答)／基本軸2－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



② 投資信託の購入意向商品

今後購入を考えている金融商品として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、今後投資信託への新規投資、または追加投資（増額）を考える場合の商品の種類を尋ねたところ、「国内債券に主に投資する投資信託」（44.6%）と「外国債券に主に投資する投資信託」（43.0%）はほぼ同程度で最も高い。次いで、「国内株式に主に投資する投資信託」（34.5%）、「様々な資産に投資する投資信託」（29.1%）、「外国株式に主に投資する投資信託」（23.3%）の順に続く。「ETF」と「外国で作られた投資信託」はともに10%未満と低い。

平成21年の調査とは項目が変わっているが似た項目で比べると、購入意向率は「不動産投資信託」で10.0ポイント、「外国債券に主に投資する投資信託」で9.7ポイント、「不動産投信に主に投資する投資信託」で6.9ポイント、「国内債券に主に投資する投資信託」で5.0ポイント高くなったが、「国内株式に主に投資する投資信託」は10.9ポイント、「様々な資産に投資する投資信託」は7.1ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別で見ると、「様々な資産に投資する投資信託」の購入意向率は男性（25.8%）より女性（36.3%）の方がやや高い。

年代別では、「外国株式に主に投資する投資信託」は60代で12.9%と40代以下に比べて低い。

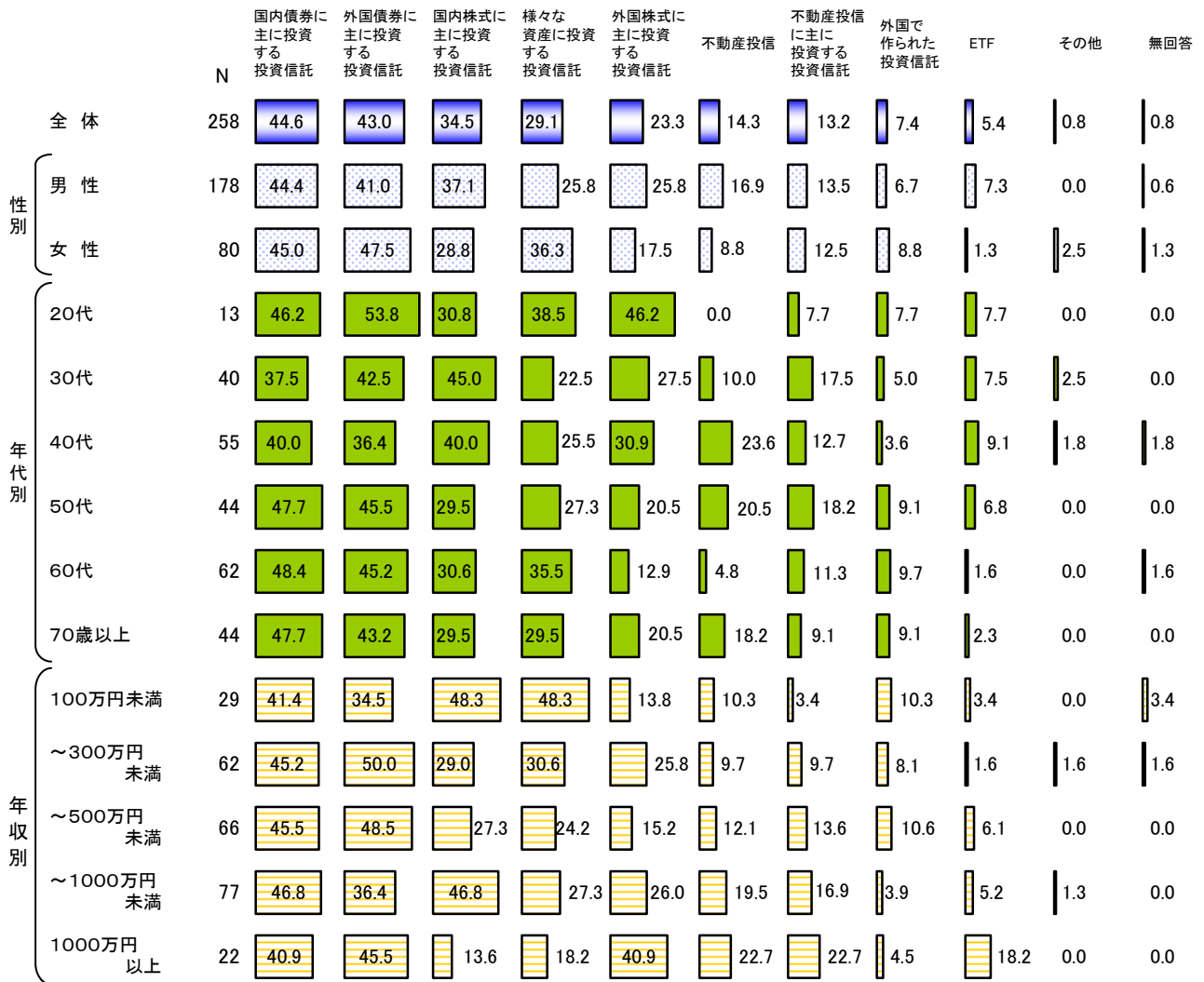
年収別では、「～1000万円未満」の層は「国内株式に主に投資する投資信託」の購入意向率が46.8%と高く、「外国債券に主に投資する投資信託」（36.4%）を上回っている。

投資信託保有状況別では、保有未経験・購入意向層は現在保有層に比べ、「国内債券に主に投資する投資信託」や「国内株式に主に投資する投資信託」の購入意向率は高いが、「外国債券に主に投資する投資信託」の購入意向率は低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層に比べその他投資信託保有層は「外国で作られた投資信託」の購入意向率が高いが、「国内債券に主に投資する投資信託」や「国内株式に主に投資する投資信託」の購入意向率は低い。

【投資信託の購入意向商品(重複回答)／基本軸1－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【参考：平成21年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	公社債投資信託	外国債券に主に投資する株式に信	国内株式に主に投資する株式に信	様々な資産に投資する株式に信	外国株式に主に投資する株式に信	不動産投信	不動産投信に主に投資する株式に信	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答
平成21年	207	39.6	33.3	45.4	36.2	23.2	4.3	6.3	5.8	9.2	1.4	1.9

【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	国内債券ファンド	MRF・MMF 中期国債FF	外国債券ファンド	国内株式ファンド	国内株式・債券 ファンド	外国株式ファンド	不動産投信	MFF 外国で作られた	MFF 外国で作られた以外の投資信託	ETF	その他 上記以外の	決めていない	無回答
平成18年	284	28.9	26.4	23.6	29.6	30.3	14.1	16.9	1.8	1.8	6.7	1.4	10.9	1.8

【投資信託の購入意向商品(重複回答)／基本軸2－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	国内債券に主に投資する投資信託	外国債券に主に投資する投資信託	国内株式に主に投資する投資信託	様々な資産に投資する投資信託	外国株式に主に投資する投資信託	不動産投信	不動産投信に主に投資する投資信託	外国で作られた投資信託	ETF	その他	無回答
全体	258	44.6	43.0	34.5	29.1	23.3	14.3	13.2	7.4	5.4	0.8	0.8
保有状況別												
現在保有層	191	40.8	47.6	26.7	28.8	23.6	13.1	14.7	9.4	4.7	0.5	1.0
保有経験層	13	38.5	38.5	46.2	30.8	23.1	23.1	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0
保有未経験・購入意向層	42	61.9	31.0	61.9	33.3	21.4	14.3	7.1	0.0	9.5	2.4	0.0
非購入意向または非認知層	12	50.0	16.7	50.0	16.7	25.0	25.0	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0
保有種類別												
株式投資信託保有層	125	44.0	50.4	33.6	28.8	22.4	14.4	16.8	3.2	4.0	0.8	0.8
公社債投資信託のみ保有層	9	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他投資信託保有層	44	31.8	45.5	4.5	22.7	27.3	11.4	11.4	29.5	9.1	0.0	2.3

③ 投資信託の情報取得に適した方法

今後購入を考えている金融商品として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、投資信託についての情報を得るのに利用したい方法を尋ねたところ、「証券会社等で説明を受け資料請求する」が59.3%で最も高い。次いで、「インターネットで調べる」(45.3%)、「新聞、雑誌、テレビ等を見たり聞いたりする」(29.1%)の順に高いが、「講演会や懇談会に参加する」(16.3%)や「家族や友人等から説明を受ける」(8.9%)などは低い。

時系列でみると、「証券会社等で説明を受け資料請求する」と「新聞、雑誌、テレビ等を見たり聞いたりする」は減少傾向がみられるのに対し、「講演会やセミナーに参加する」はやや高くなっている。

対象者属性別では、性別でみると、男性の方が「インターネットで調べる」と「新聞、雑誌、テレビ等を見たり聞いたりする」がやや高く、女性の方が「証券会社等で説明を受け資料請求する」、「家族や友人等から説明を受ける」がやや高い。

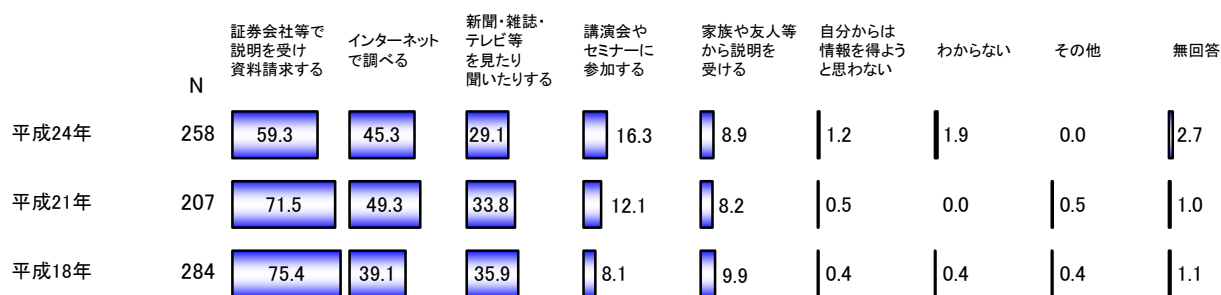
年代別では、「インターネットで調べる」は40代では81.8%と高いが、年代が上がるにつれ低くなっている。一方、「証券会社等で説明を受け資料請求する」と「講演会やセミナーに参加する」は年代が高い層ほど高くなっている。

年収別では、「証券会社等で説明を受け資料請求する」は年収が低いほど高いが、「インターネットで調べる」は、年収が高いほど高くなる傾向がみられる。「新聞、雑誌、テレビ等を見たり聞いたりする」は「～500万円未満」の中間層で高い。

投資信託保有状況別では、現在保有層に比べ保有未経験・購入意向層は「インターネットで調べる」、「講演会やセミナーに参加する」、「家族や友人等から説明を受ける」などが高く、積極的に情報を得ようとしている様子が見られるが、「新聞、雑誌、テレビ等を見たり聞いたりする」は低い。

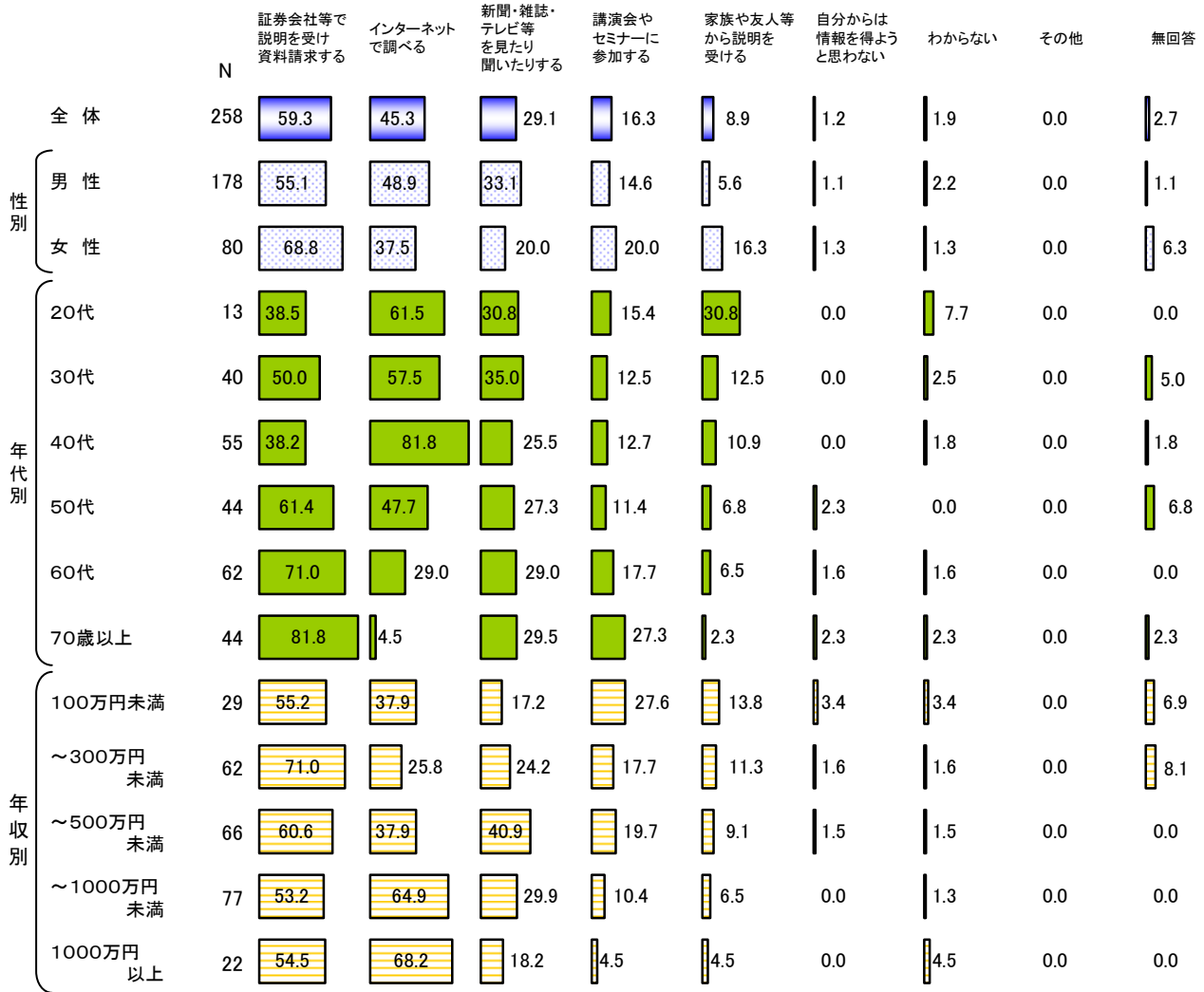
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層に比べその他投資信託保有層は「インターネットで調べる」が低い。

【投資信託の情報取得に適した方法(重複回答)／時系列－投資信託関心者ベース】



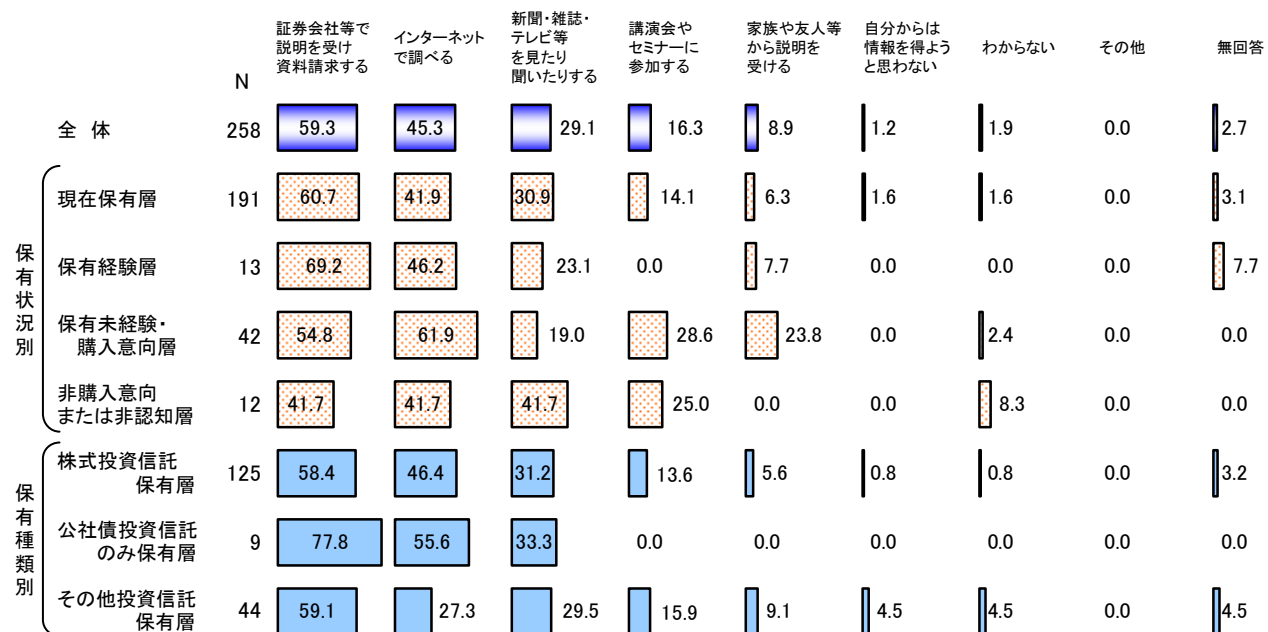
【投資信託の情報取得に適した方法(重複回答)／基本軸1－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の情報取得に適した方法(重複回答)／基本軸2－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



④ 投資信託の購入意向機関

今後購入を考えている金融商品として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人が、今後新たに投資信託を購入する場合、購入したい場所としては、「証券会社の店頭」が41.5%で最も高い。次いで、「証券会社のインターネット取引」(31.8%)と「銀行の店頭（ゆうちょ銀行を含む）」(31.4%)が同程度で並んでいる。「銀行のインターネット取引（ゆうちょ銀行を含む）」も18.2%で比較的高いが、「投資信託会社」は11.6%、「確定拠出年金及び財形貯蓄」は5.8%のみである。

時系列でみると、選択肢が変わったため、厳密には比較できないが、「投資信託会社」の比率には大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、「証券会社のインターネット取引」での購入意向率は男性(37.1%)で女性(20.0%)を大きく上回っている。

年代別では、「証券会社のインターネット取引」、「銀行のインターネット取引（ゆうちょ銀行を含む）」の意向率はともに30～40代で高い。一方、「証券会社の店頭」は50代以上で高い。

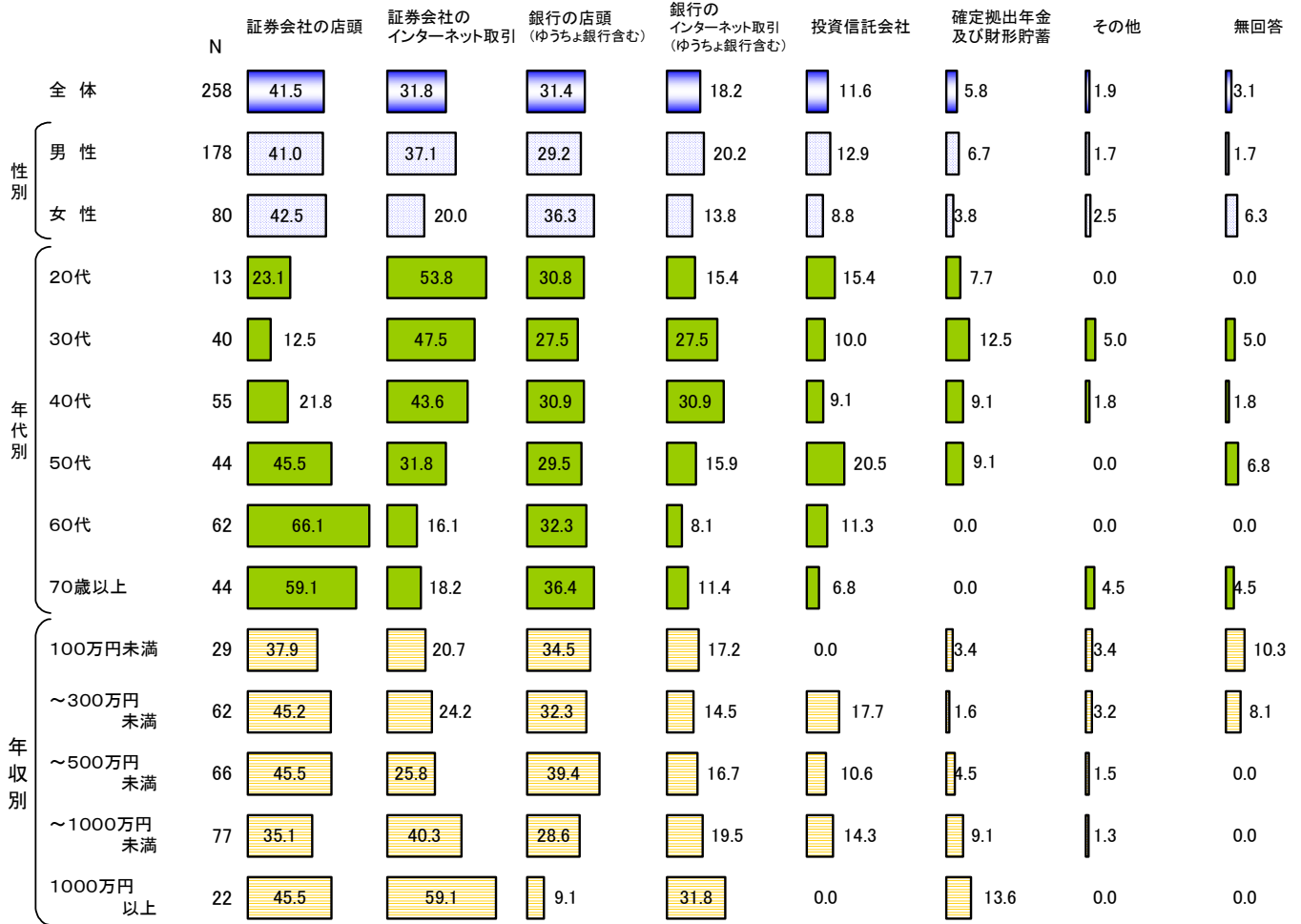
年収別では、「～1000万円未満」の層は「証券会社のインターネット取引」の意向率が高く、「証券会社の店頭」を上回っている。

投資信託保有状況別では、現在保有層では「証券会社の店頭」が高く、保有未経験・購入意向層では「銀行の店頭（ゆうちょ銀行を含む）」が高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層に比べその他投資信託保有層は「銀行の店頭（ゆうちょ銀行を含む）」は高いが、「証券会社のインターネット取引」は低い。

【投資信託の購入意向機関(重複回答)／基本軸1－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【参考：平成21年、18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	証券会社	銀行等の 金融機関	投資信託会社	ゆうちょ銀行 (郵便局)	特に こだわらない	無回答
平成21年	207	53.1	44.4	11.6	9.2	13.5	1.0
平成18年	284	54.6	45.1	13.4	12.0	14.1	1.8

【投資信託の購入意向機関(重複回答)／基本軸2－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	証券会社の店頭	証券会社のインターネット取引	銀行の店頭 (ゆうちょ銀行含む)	銀行のインターネット取引 (ゆうちょ銀行含む)	投資信託会社	確定拠出年金 及び財形貯蓄	その他	無回答
全体	258	41.5	31.8	31.4	18.2	11.6	5.8	1.9	3.1
保有状況別	現在保有層	46.1	27.7	28.8	17.8	8.4	5.8	1.6	3.7
	保有経験層	53.8	38.5	7.7	15.4	15.4	0.0	0.0	7.7
	保有未経験・ 購入意向層	21.4	40.5	52.4	26.2	26.2	7.1	2.4	0.0
	非購入意向 または非認知層	25.0	58.3	25.0	0.0	8.3	8.3	8.3	0.0
保有種類別	株式投資信託 保有層	44.8	33.6	25.6	20.8	8.0	7.2	1.6	3.2
	公社債投資信託 のみ保有層	44.4	22.2	33.3	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他投資信託 保有層	43.2	15.9	36.4	11.4	13.6	4.5	2.3	6.8

⑤ 投資信託の保有期間

今後購入を考えている金融商品として「国内の投資信託」または「外国で作られた投資信託」を選んだ人に対して、投資信託を購入する場合の保有期間を尋ねると、「特に期間は決めない」が38.8%で最も高い。具体的な期間としては、「3年以上5年未満」(22.5%)、「2年以上3年未満」(15.9%)の順に高い。

時系列で見ると、「特に期間は決めない」に増加傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみても大きな差はみられない。

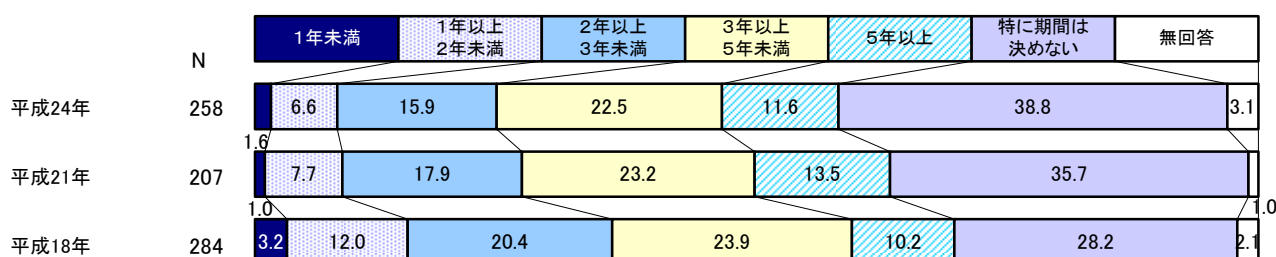
年代別では、「特に期間は決めない」は40代で半数を占め最も高いが、70歳以上では20%以下と低い。70歳以上は「2年以上3年未満」と「3年以上5年未満」の比率が高く、合わせると半数を占める。60代も「3年以上5年未満」の比率が他の層より高い。

年収別では、『100万円以上1000万円未満』の各層には大きな差はみられない。

投資信託保有状況別では、現在保有層と保有未経験・購入意向層には大きな差はみられない。

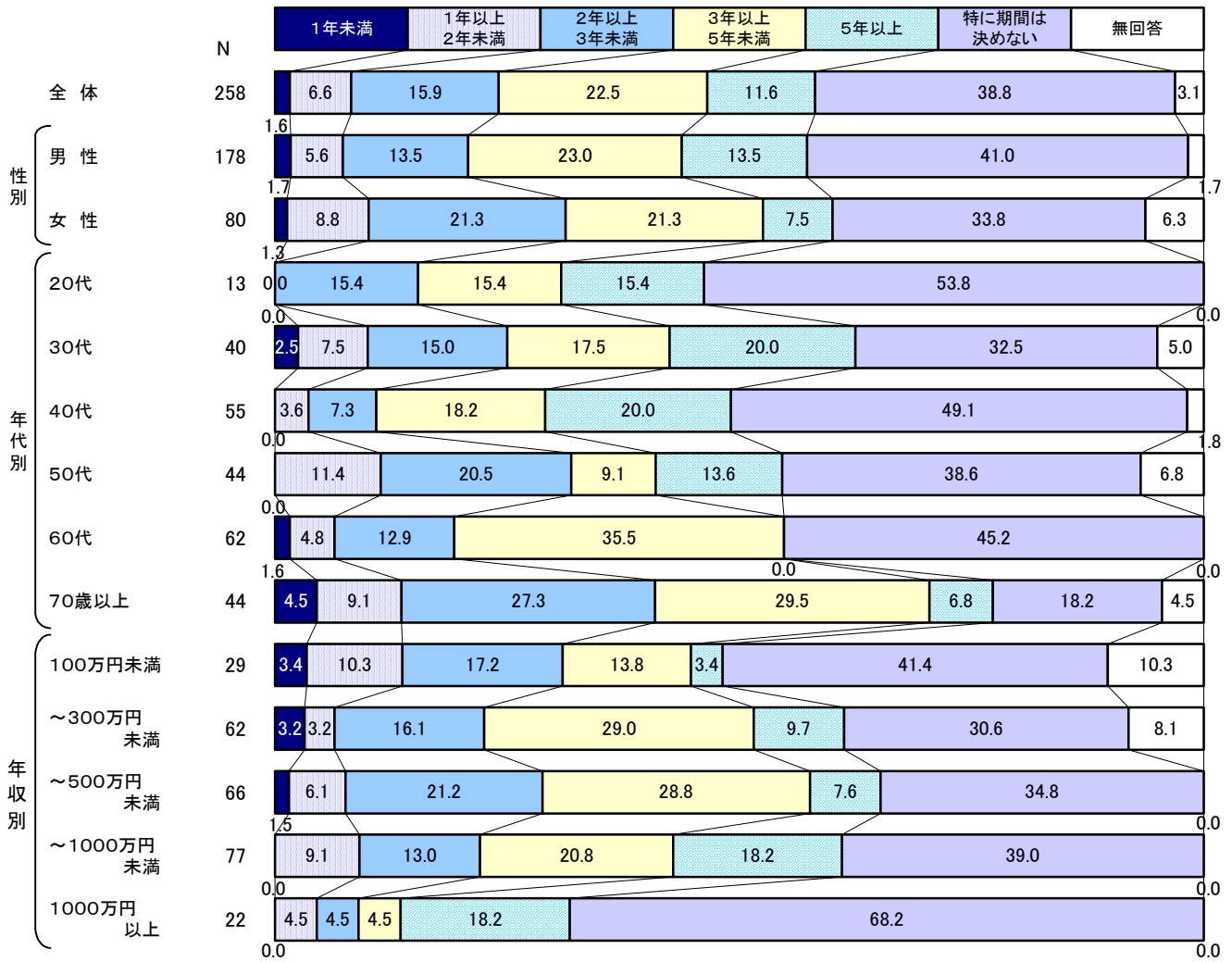
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層に比べその他投資信託保有層は「2年以上3年未満」の比率が高い。

【投資信託の保有期間(単数回答)／時系列－投資信託関心者ベース】



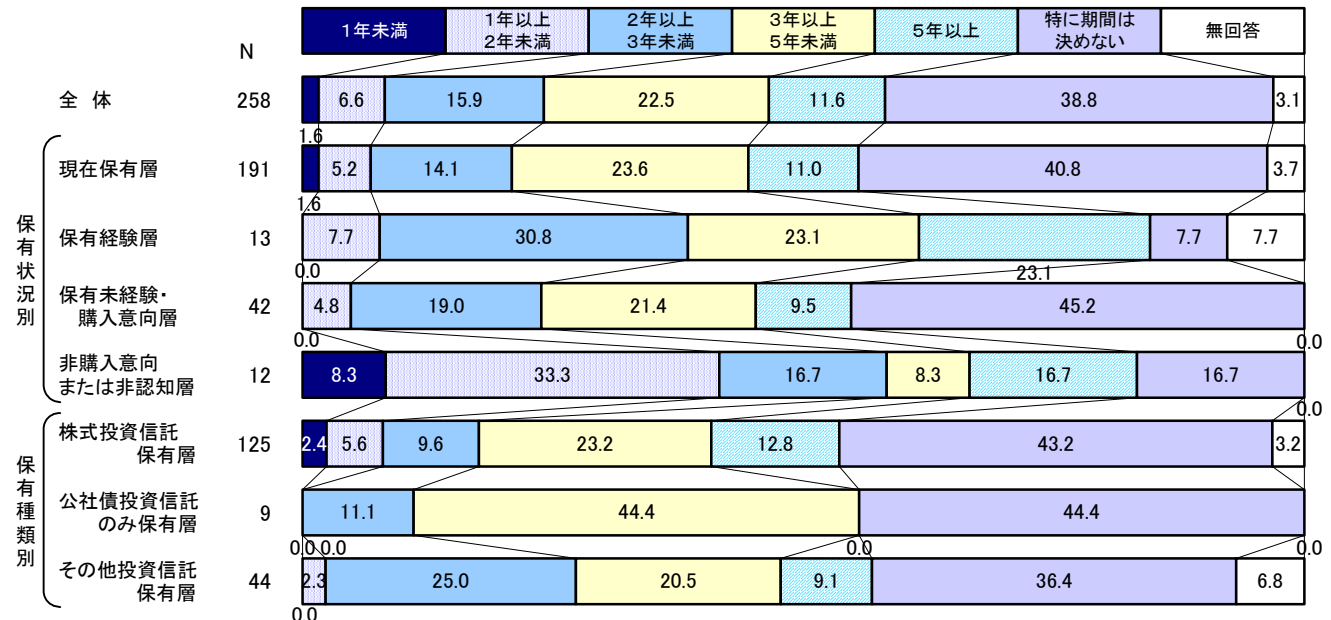
【投資信託の保有期間(単数回答)／基本軸1－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の保有期間(単数回答)／基本軸2－投資信託関心者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



8. 投資信託に関する認知・接触状況(回答者全体)

(1) 投資信託の認知状況〔問1〕

『投資信託』について「よく知っている」は10.5%、「大体は知っている」が48.6%であり、これらを合わせた“認知率”は59.1%と過半数を占める。また、「言葉だけは知っている」は38.5%であり、「言葉も知らなかった」のは1.2%のみである。

時系列では、選択肢が変更され厳密には比較できないため、コメントは割愛する。

対象者属性別では、性別でみると、“認知率”は男性(62.2%)の方が女性(55.2%)より高い。

年代別では、“認知率”は20代では40.0%と低いが、年代が上がるにつれ高くなり、70歳以上では77.5%にのぼる。

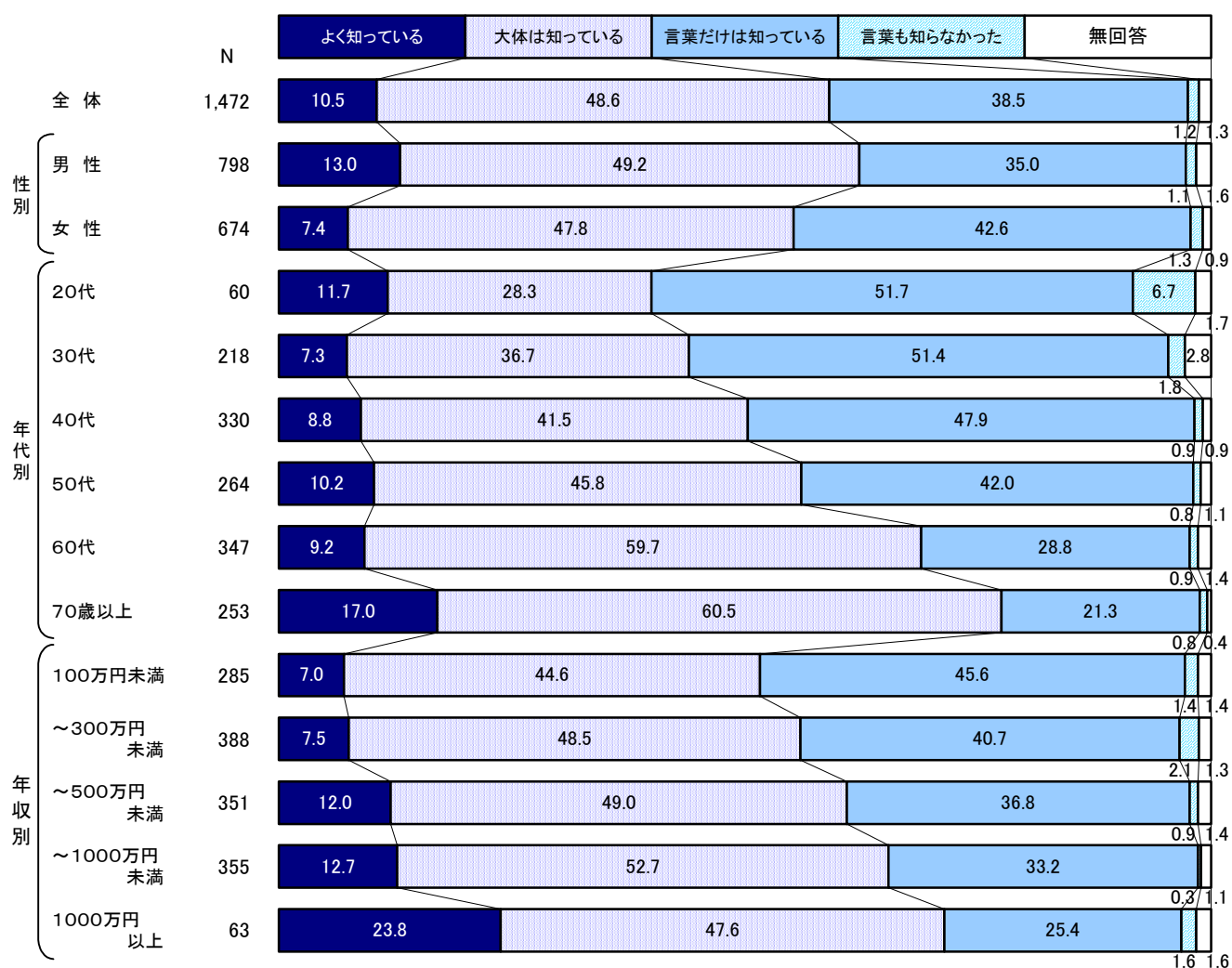
年収別では、“認知率”は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。「1000万円以上」の高年収層では「よく知っている」も23.8%と他の層より高く、“認知率”は71.4%にのぼる。

投資信託保有状況別では、“認知率”は現在保有層(90.2%)や保有経験層(85.6%)では高いが、保有未経験・購入意向層では42.9%と半数以下に下がり、非購入意向または非認知層では21.7%に過ぎない。ただし、非購入意向または非認知層でも「言葉も知らなかった」は3.5%に過ぎない。

投資信託保有種類別では、“認知率”はいずれも高いレベルであるが、中でも株式投資信託保有層は92.7%と高く、その他投資信託保有層(87.0%)をやや上回る。

居住地別では、“認知率”はその他の関東で65.6%とやや高いが、北海道・東北(54.4%)、中国・四国・九州・沖縄(55.9%)はやや低い。

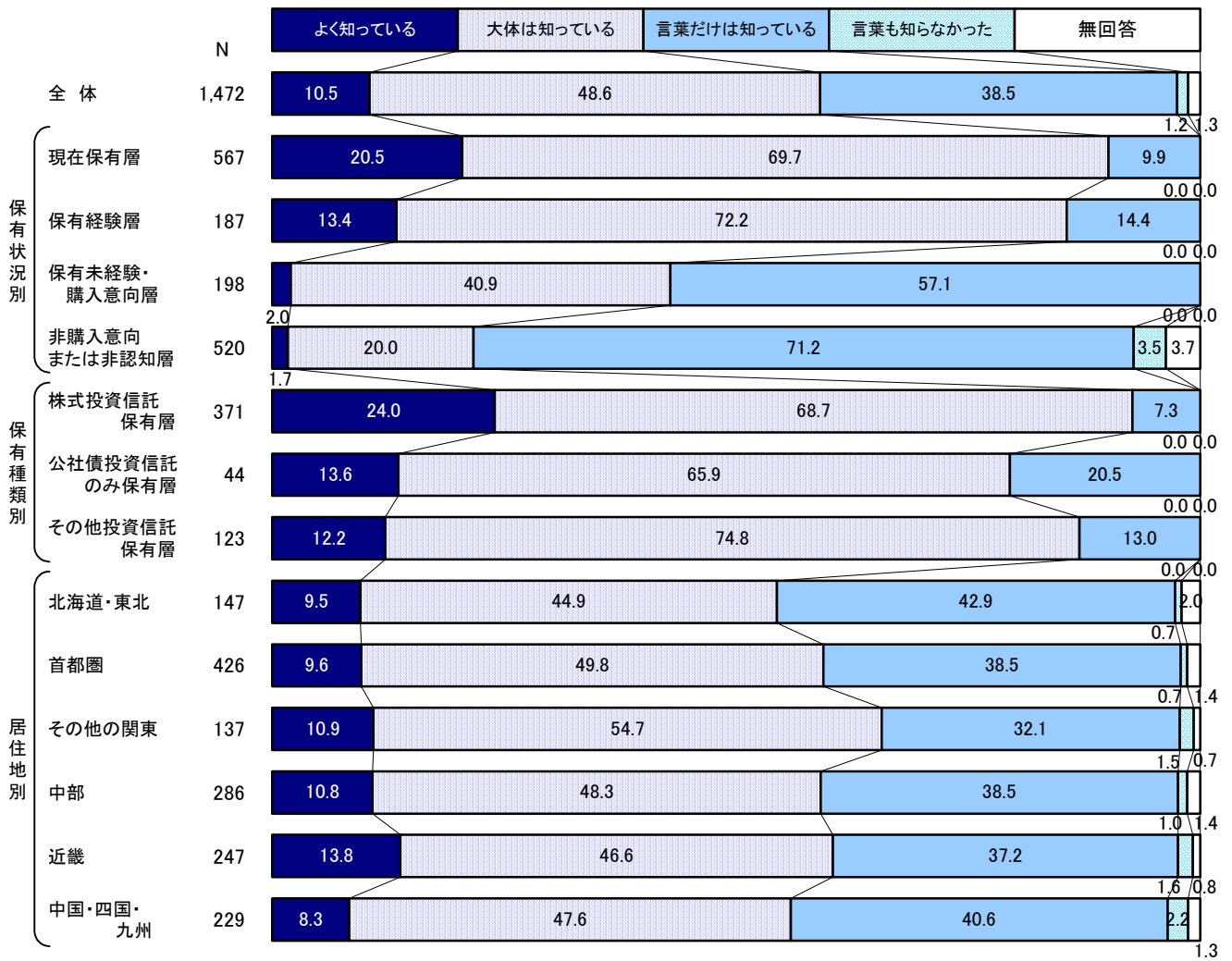
【投資信託の認知状況(単数回答)／基本軸1】



【参考：平成21年、18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	よく知っている	言葉だけは知っている	言葉も知らなかった	無回答
平成21年	1,475	33.5	65.2	0.5	0.9
平成18年	1,311	29.4	66.2	1.4	3.0

【投資信託の認知状況(単数回答)／基本軸2】



(2) 投資信託の商品内容認知状況〔問30〕

投資信託の特徴の中で知っているものを答えてもらったところ、「元本の保証はない」が73.6%で最も高い。以下、「銀行等の金融機関でも購入できる」(55.8%)、「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」(54.1%)、「国内の投資信託と海外の投資信託がある」(52.8%)、「リスクとリターンは相互関係にある」(42.5%)、「投資信託会社が運用している」(34.6%)、「MRF・MMFおよび中期国債ファンドは投資信託商品である」(31.5%)の順に高い。なお、「知っているものは特にならない」は11.8%みられる。

時系列でみると、「元本の保証はない」、「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」、「投資信託会社が運用している」、「手数料とは別に信託報酬がかかる」はともにやや増加傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、男性の方が「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」、「リスクとリターンは相互関係にある」、「投資信託会社が運用している」、「手数料とは別に信託報酬がかかる」はともに女性より高く、男性の方が多様な知識を持っている。

年代別では、「知っているものは特にならない」は若年層ほど高く、若年層では全般的に認知率が低めとなっている。上位項目の多くは50～60代が最も高い山型の分布となっており、70歳以上ではやや下がっている。

年収別では、「元本の保証はない」には大きな差はみられないが、それ以外の多くの項目では年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、高年収層ほど多様な知識を持っている様子がうかがえる。

投資信託保有状況別では、「知っているものはない」以外の全ての項目で現在保有層>保有経験層>保有未経験・購入意向層>非購入意向または非認知層の順となっている。非購入意向または非認知層は「知っているものはない」は28.8%と他の層を大きく上回っているが、「元本の保証はない」ことは半数以上(54.6%)が知っている。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は、「銀行等の金融機関でも購入できる」「投資信託会社が運用している」などで他2層に比べて認知率が高く、全般的に知識量が多い。公社債投資信託のみ保有層は「国内投資信託と海外投資信託がある」や「基準価額は新聞や投資信託会社HPで閲覧できる」、「手数料とは別に信託報酬がかかる」は低く、全般的に知識量は少なめである。

居住地別では、北海道・東北は他の地域に比べ「価格変動があり、外国投資には為替リスクがある」や「投資信託会社が運用している」、「MRF、MMF・中国ファンドは投信商品である」の認知率がやや低いが、他には顕著な差はみられない。

【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／時系列】

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	国内の投資信託と海外の投資信託がある	リスクとリターンは相互関係にある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投資商品	基準価額は新聞や投資信託会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にならない	無回答
平成24年	1,472	73.6	55.8	54.1	52.8	42.5	34.6	31.5	22.4	21.7	10.8	9.2	11.8	2.0
平成21年	1,475	71.2	59.3	53.1	53.3	43.1	33.3	30.2	23.1	20.8	10.2	9.6	14.2	1.2
平成18年	1,311	64.1	58.7	49.4	52.9	40.0	28.1	37.8	20.4	16.4	10.1	7.5	15.6	2.7

【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／基本軸1】

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	国内の投信と海外の投信がある	リスクとリターンは相互関係にある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投信商品	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にない	無回答	
全体	1,472	73.6	55.8	54.1	52.8	42.5	34.6	31.5	22.4	21.7	10.8	9.2	11.8	2.0	
性別	男性	798	73.2	54.4	57.8	54.8	48.4	39.0	30.6	23.9	26.3	11.5	10.9	11.7	2.1
	女性	674	74.0	57.6	49.9	50.4	35.6	29.5	32.6	20.5	16.2	9.9	7.1	11.9	1.9
年代別	20代	60	58.3	43.3	50.0	43.3	38.3	31.7	20.0	23.3	21.7	20.0	10.0	23.3	3.3
	30代	218	68.8	53.2	45.4	48.6	48.6	37.2	25.7	18.3	21.6	10.1	6.9	17.4	1.4
	40代	330	70.6	49.4	47.9	47.3	44.2	32.7	28.8	21.2	23.3	11.8	7.9	15.8	0.3
	50代	264	77.7	54.9	57.6	57.6	49.2	36.4	37.9	25.0	24.2	14.8	11.7	9.1	2.3
	60代	347	79.5	64.8	61.7	57.1	41.2	38.3	33.1	25.1	21.6	8.6	7.8	7.2	0.9
	70歳以上	253	72.7	58.1	56.9	54.9	30.8	28.9	34.0	20.6	17.0	6.7	11.9	7.9	5.9
	年収別	100万円未満	285	72.3	54.0	50.5	46.3	34.4	26.0	28.8	16.5	13.0	7.7	5.3	14.7
～300万円未満	388	68.8	53.4	46.6	49.2	35.8	29.6	27.8	19.3	15.5	9.0	8.8	13.9	3.1	
～500万円未満	351	73.8	57.0	58.7	55.0	45.0	37.3	30.2	23.9	23.9	10.0	8.0	10.5	1.4	
～1000万円未満	355	79.4	58.9	62.0	58.9	50.7	43.4	38.0	27.6	31.5	13.8	12.4	8.5	1.4	
1000万円以上	63	77.8	65.1	52.4	60.3	63.5	42.9	41.3	30.2	31.7	23.8	19.0	6.3	1.6	

【投資信託の商品内容認知状況(重複回答)／基本軸2】

	N	元本の保証はない	銀行等の金融機関でも購入できる	価格変動があり、外国投資には為替リスクがある	国内の投信と海外の投信がある	リスクとリターンは相互関係にある	投資信託会社が運用している	MRF・MMF・中国Fは投信商品	基準価額は新聞や投信会社HPで閲覧可	手数料とは別に信託報酬がかかる	日本に投信の評価を行う会社がある	信託財産は分別保管されている	知っているものは特にならない	無回答	
全体	1,472	73.6	55.8	54.1	52.8	42.5	34.6	31.5	22.4	21.7	10.8	9.2	11.8	2.0	
保有状況別	現在保有層	567	87.8	74.8	72.7	71.3	51.9	47.1	43.7	37.6	36.0	16.0	16.0	1.4	2.3
	保有経験層	187	83.4	67.4	63.6	62.6	47.6	43.3	44.4	27.3	24.1	15.0	11.2	2.7	2.7
	保有未経験・購入意向層	198	73.2	57.6	56.1	55.1	51.0	31.3	25.8	13.1	14.6	6.1	4.0	5.1	0.5
	非購入意向または非認知層	520	54.6	30.4	29.8	28.3	27.3	19.2	15.8	7.5	7.9	5.4	2.9	28.8	2.1
保有種類別	株式投資信託保有層	371	90.3	78.7	75.2	74.4	53.9	51.2	44.7	41.0	39.9	18.9	18.6	1.1	2.7
	公社債投資信託のみ保有層	44	84.1	63.6	59.1	45.5	47.7	36.4	40.9	20.5	15.9	9.1	11.4	4.5	2.3
	その他投資信託保有層	123	82.9	66.7	71.5	69.9	46.3	39.8	41.5	35.0	32.5	7.3	9.8	1.6	1.6
居住地別	北海道・東北	147	72.1	53.1	44.9	44.9	41.5	28.6	21.1	18.4	16.3	9.5	6.1	11.6	2.7
	首都圏	426	72.1	52.6	54.9	55.6	42.3	34.3	34.0	22.5	23.7	11.5	8.9	12.4	1.4
	その他の関東	137	77.4	59.9	59.1	56.9	46.0	38.7	35.8	35.0	27.0	13.9	10.2	8.8	1.5
	中部	286	73.1	56.6	57.3	51.7	42.3	35.3	29.7	20.3	20.3	9.4	10.1	12.6	3.1
	近畿	247	77.3	55.5	53.0	53.4	43.7	35.6	33.2	22.3	21.9	15.0	13.4	9.7	1.6
	中国・四国・九州	229	71.6	60.7	52.8	50.7	40.6	34.9	31.4	19.7	19.7	5.7	5.2	13.5	2.2

(3) 投資信託についてのイメージ〔問 29〕

投資信託に対するイメージとしては、「元本割れが怖い」(54.2%)が最も高く、次いで「仕組みがわかりにくい」(43.8%)が高い。第3位以下は上位2項目に比べ低く、「用語がわかりにくい」(24.1%)、「長期運用に向いている」(20.2%)、「投資の初心者向けである」(16.2%)、「投資の上級者向けである」(14.1%)、「気軽に始められる」(13.2%)の順となっている。

対象者属性別では、性別でみると、「元本割れが怖い」は男性(48.5%)より女性(61.0%)の方が高い。女性の方が「用語がわかりにくい」イメージも高いが、男性の方が「投資の初心者向けである」や「気軽に始められる」はやや高い。

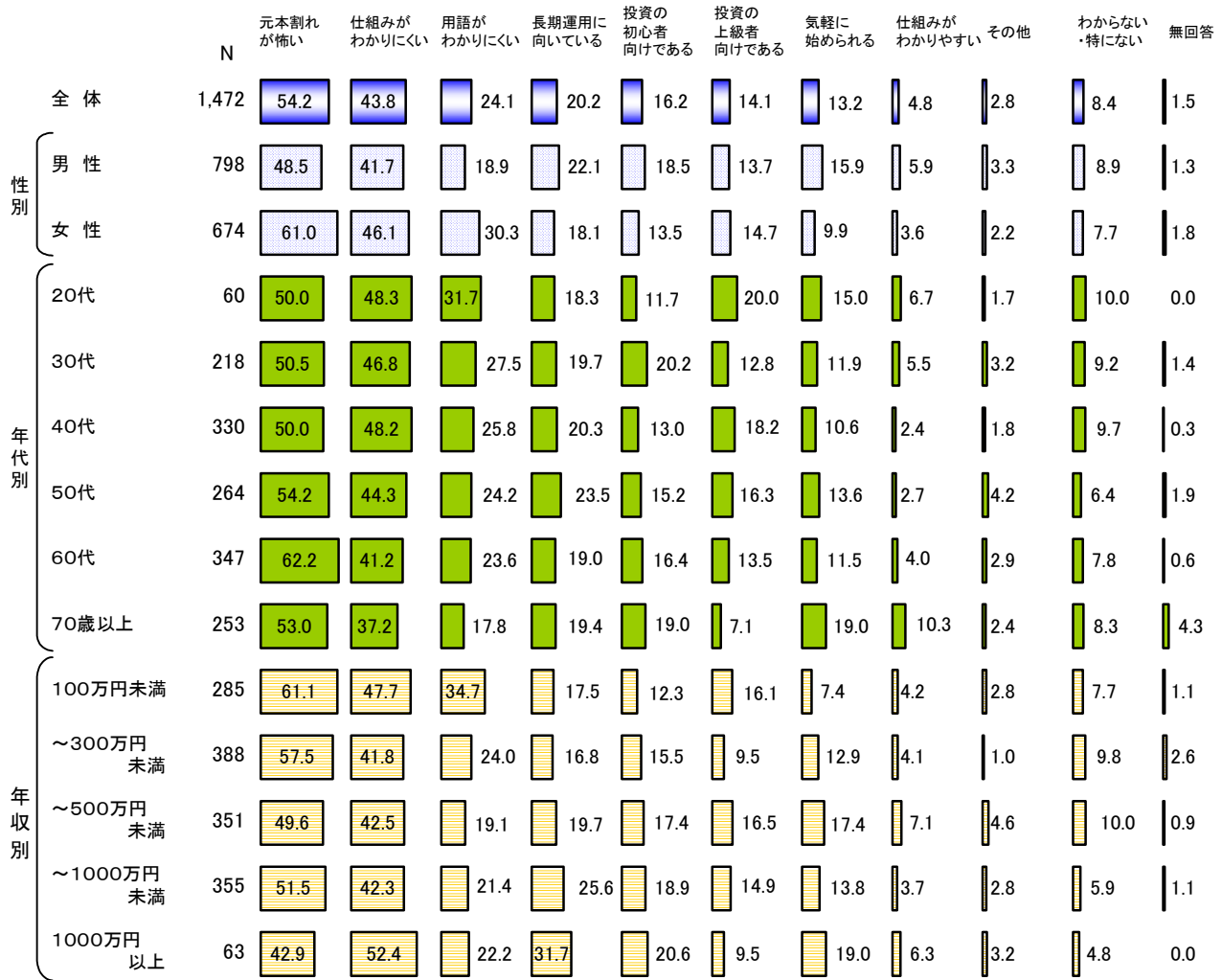
年代別では、「元本割れが怖い」は60代で62.2%と特に高い。「仕組みがわかりにくい」イメージは高年齢層ではやや低くなる傾向がみられ、「用語がわかりにくい」イメージも若年層ほど高い。

年収別では、「元本割れが怖い」は年収が低い層ほど高くなる傾向がみられ、「用語がわかりにくい」も「100万円未満」の低年収層で高い。一方、「長期運用に向いている」、「投資の初心者向けである」、「気軽に始められる」は「100万円未満」の低年収層に比べ、『500万円以上』の層の方が高く、高年収層ほどプラスイメージが高い。

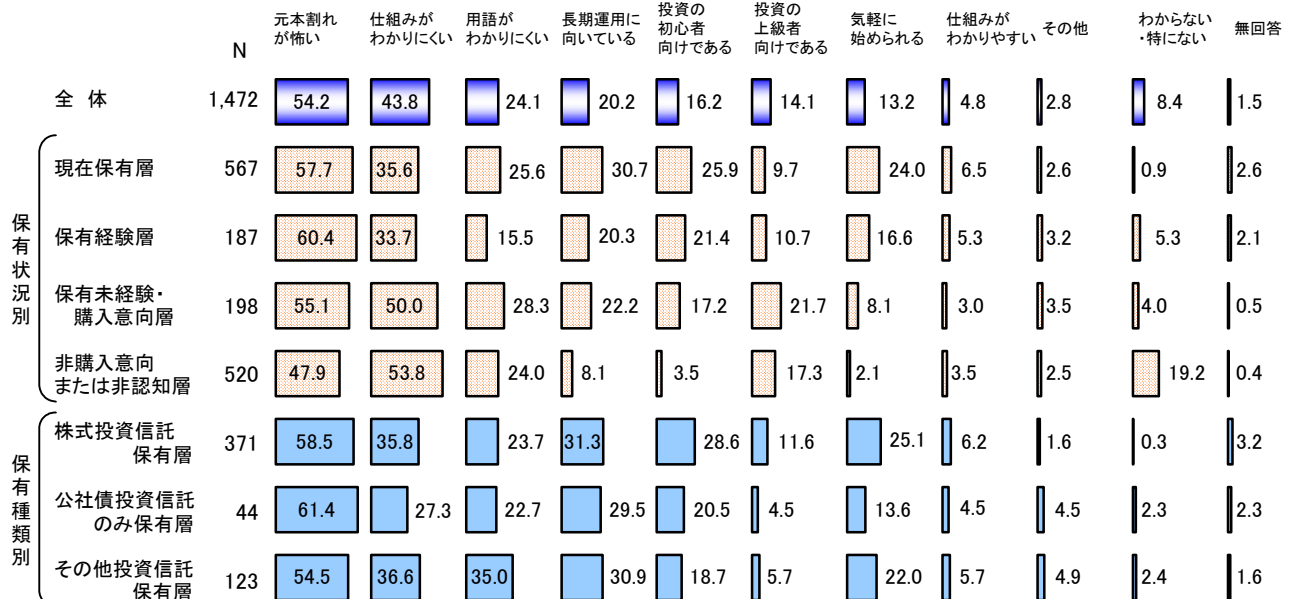
投資信託保有状況別では、現在保有層や保有経験層に比べ、保有未経験・購入意向層や非購入意向または非認知層は「仕組みがわかりにくい」や「投資の上級者向けである」イメージを持つ率が高い。また、非購入意向または非認知層は他の層に比べ「長期運用に向いている」、「投資の初心者向けである」イメージを持つ率は低い。「気軽に始められる」は現在保有層>保有経験層>保有未経験・購入意向層>非購入意向または非認知層の順となっており、投資信託と関与している層ほど、親近感が強い様子が見られる。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「投資の初心者向けである」イメージが高い。その他投資信託保有層は他の2層に比べ「用語がわかりにくい」イメージが高い。

【投資信託についてのイメージ（重複回答）／基本軸1】



【投資信託についてのイメージ（重複回答）／基本軸2】



(4) 投資信託について入手したい情報〔問 31〕

投資信託について入手したい情報としては、「分配金の額」(38.5%)と「基準価額」(37.4%)がほぼ同程度で最も高い。次いで「騰落率」(30.0%)、「販売手数料率・額」(27.2%)、「純資産残高」(23.2%)、「信託報酬率・額」(21.5%)、「決算頻度」(17.4%)、「信託期間」(16.4%)の順に続く。なお、「特にない・よくわからない」という人も37.3%みられる。

平成21年の調査結果と比べると、「決算頻度」、「基準価額」、「信託期間」が微減している。

対象者属性別では、性別でみると、全ての項目で男性の方が女性より高く、男性の方が多様な情報を欲している様子がうかがえる。

年代別では、「特にない・よくわからない」は20代では45.0%と半数近くを占めるが、70歳以上では30.8%と低い。他の項目では大きな差はみられない。

年収別では、「特にない・よくわからない」は年収の低い層ほど高い傾向がみられ、全般的に年収が高いほど多様な情報を求めている。

投資信託保有状況別にみると、ほとんどの項目で現在保有層が最も高く、この層は多様な情報を必要としている。次いで保有未経験・購入意向層も高い項目が多く、この層も多様な情報に興味を持っている様子がうかがえる。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ、「信託期間」の入手希望率が高い。

居住地別では、その他の関東では「特にない・よくわからない」が他の地域よりやや低く、「基準価額」、「販売手数料率・額」、「純資産残高」などが他の地域よりやや高い。

【投資信託について入手したい情報(重複回答)／時系列】

	N	分配金の額	基準価額	騰落率	販売手数料率・額	純資産残高	信託報酬率・額	決算頻度	信託期間	信託財産留保金	設定年月日	特にない・よくわからない	その他	無回答
平成24年	1,472	38.5	37.4	30.0	27.2	23.2	21.5	17.4	16.4	10.1	9.4	37.3	2.4	2.4
平成21年	1,475	41.0	41.6	32.3	30.5	21.1	22.4	22.0	20.4	7.7	11.1	36.7	1.3	1.8

【投資信託について入手したい情報(重複回答)／基本軸1】

	N	分配金の額	基準価額	騰落率	販売手数料率・額	純資産残高	信託報酬率・額	決算頻度	信託期間	信託財産留保金	設定年月日	特になく、よくわからない	その他	無回答	
全体	1,472	38.5	37.4	30.0	27.2	23.2	21.5	17.4	16.4	10.1	9.4	37.3	2.4	2.4	
性別	男性	798	42.5	40.1	32.3	29.3	26.9	24.3	19.4	18.0	11.5	11.0	35.1	1.8	1.9
	女性	674	33.7	34.1	27.3	24.8	18.8	18.1	15.0	14.4	8.5	7.4	39.9	3.1	3.1
年代別	20代	60	33.3	41.7	38.3	31.7	16.7	26.7	16.7	15.0	8.3	13.3	45.0	0.0	0.0
	30代	218	38.1	36.2	28.9	31.7	22.0	23.4	20.2	13.3	8.7	8.7	37.2	1.4	2.8
	40代	330	35.8	33.6	29.4	26.4	23.6	23.3	15.2	14.5	12.1	8.2	41.8	2.7	0.9
	50代	264	39.8	36.4	35.2	30.3	25.0	27.3	19.3	17.0	11.4	10.2	36.0	2.3	3.4
	60代	347	41.2	39.5	28.0	25.1	23.1	18.7	18.2	18.4	11.2	11.8	37.5	2.3	1.4
	70歳以上	253	38.3	40.3	27.3	23.3	23.7	13.8	15.0	18.2	6.3	6.3	30.8	3.6	5.1
	年取別	100万円未満	285	28.4	29.1	24.6	21.4	17.2	16.8	14.7	12.6	8.1	7.0	46.0	2.5
～300万円未満	388	34.3	36.9	26.3	27.3	19.3	19.3	14.4	15.5	8.5	9.5	39.4	1.8	4.1	
～500万円未満	351	41.9	37.0	33.9	27.1	23.9	21.9	19.9	17.7	10.5	10.5	35.0	2.8	1.4	
～1000万円未満	355	48.5	44.8	34.4	32.1	32.4	27.6	21.4	18.0	13.2	10.4	30.1	2.0	2.0	
1000万円以上	63	41.3	47.6	39.7	31.7	27.0	23.8	14.3	23.8	11.1	9.5	30.2	4.8	0.0	

【投資信託について入手したい情報(重複回答)／基本軸2】

	N	分配金の額	基準価額	騰落率	販売手数料率・額	純資産残高	信託報酬率・額	決算頻度	信託期間	信託財産留保金	設定年月日	特にない・よくわからない	その他	無回答	
全体	1,472	38.5	37.4	30.0	27.2	23.2	21.5	17.4	16.4	10.1	9.4	37.3	2.4	2.4	
保有状況別	現在保有層	567	51.3	56.8	42.2	32.5	37.6	27.0	24.2	23.8	15.5	15.2	16.6	3.2	3.9
	保有経験層	187	39.0	31.6	34.2	29.4	22.5	22.5	16.0	17.1	11.2	13.9	31.0	4.8	2.1
	保有未経験・購入意向層	198	44.4	43.4	33.3	38.4	23.2	27.8	18.2	16.2	9.6	6.6	29.8	0.5	1.0
	非購入意向または非認知層	520	21.9	16.0	14.0	16.5	7.9	12.7	10.2	8.1	4.0	2.5	65.0	1.3	1.5
	株式投資信託保有層	371	51.5	58.5	43.9	32.9	38.0	28.0	23.5	27.2	17.8	16.7	14.8	3.0	4.3
保有種類別	公社債投資信託のみ保有層	44	54.5	52.3	29.5	25.0	25.0	15.9	22.7	9.1	2.3	6.8	27.3	6.8	2.3
	その他投資信託保有層	123	46.3	52.0	39.0	32.5	39.0	26.8	22.8	17.9	13.0	13.8	20.3	2.4	4.1
	北海道・東北	147	33.3	37.4	27.9	20.4	18.4	19.0	16.3	12.9	5.4	6.8	36.1	1.4	4.8
居住地別	首都圏	426	41.8	37.6	30.5	29.8	22.1	21.8	18.8	16.7	11.0	9.2	38.0	2.3	1.6
	その他の関東	137	40.9	44.5	35.0	34.3	32.1	23.4	19.7	19.7	9.5	12.4	28.5	3.6	2.9
	中部	286	37.4	40.6	31.8	24.8	22.7	19.9	15.4	16.1	9.1	7.3	39.5	1.7	1.7
	近畿	247	37.7	34.8	27.9	25.1	24.7	21.9	16.6	17.0	12.1	12.1	38.9	1.6	2.8
	中国・四国・九州	229	36.2	31.4	27.5	27.9	22.3	22.7	17.5	15.7	10.9	9.2	37.6	3.9	2.6

(5) 確定拠出年金の加入状況〔問 32〕

確定拠出年金(日本版 401k)に「加入しており、投資信託を購入している」のは5.6%、「加入しているが、投資信託は購入していない」は3.9%であり、これらを合わせた確定拠出年金の“加入率”は9.5%のみであり、現状では大半が「加入していない」(86.9%)。

時系列で見ると、“加入率”は大きな差ではないが、微増傾向となっている。

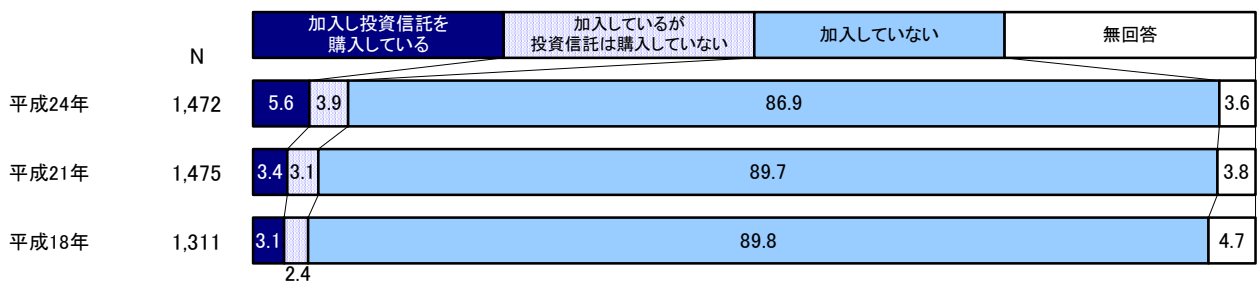
対象者属性別では、性別で見ると、“加入率”は男性(12.7%)の方が女性(5.8%)より高い。

年収別では、“加入率”は『300万円未満』までの層では5%未満と低いが、それ以上では年収が上がるにつれ高くなり、「1000万円以上」の高年収層では22.2%が加入している。

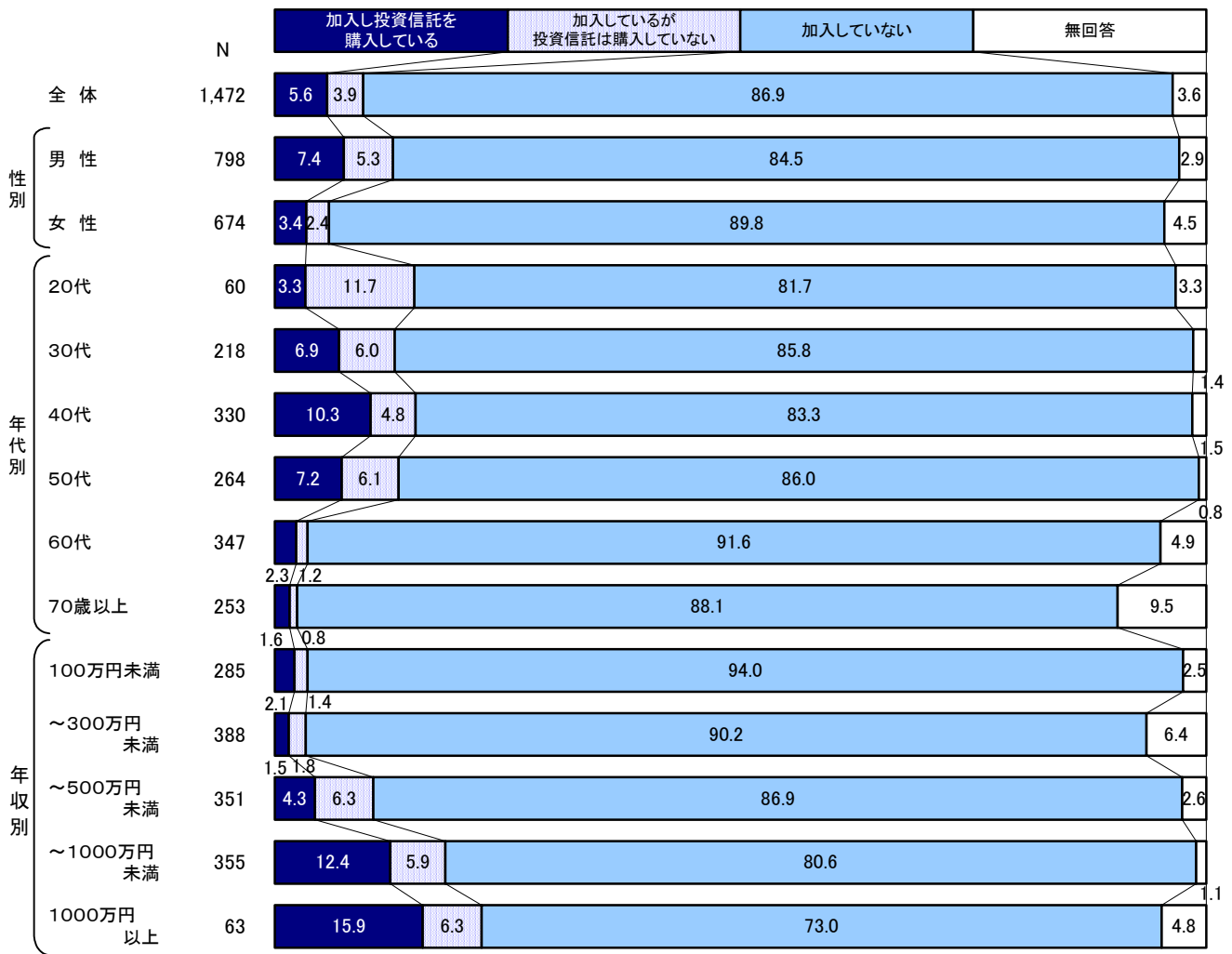
投資信託保有状況別にみると、現在投資信託を保有している層の、“加入率”は12.5%で、保有経験層、非購入意向または非認知層に比べると高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は「加入し投資信託を購入している」率が12.9%で最も高い。

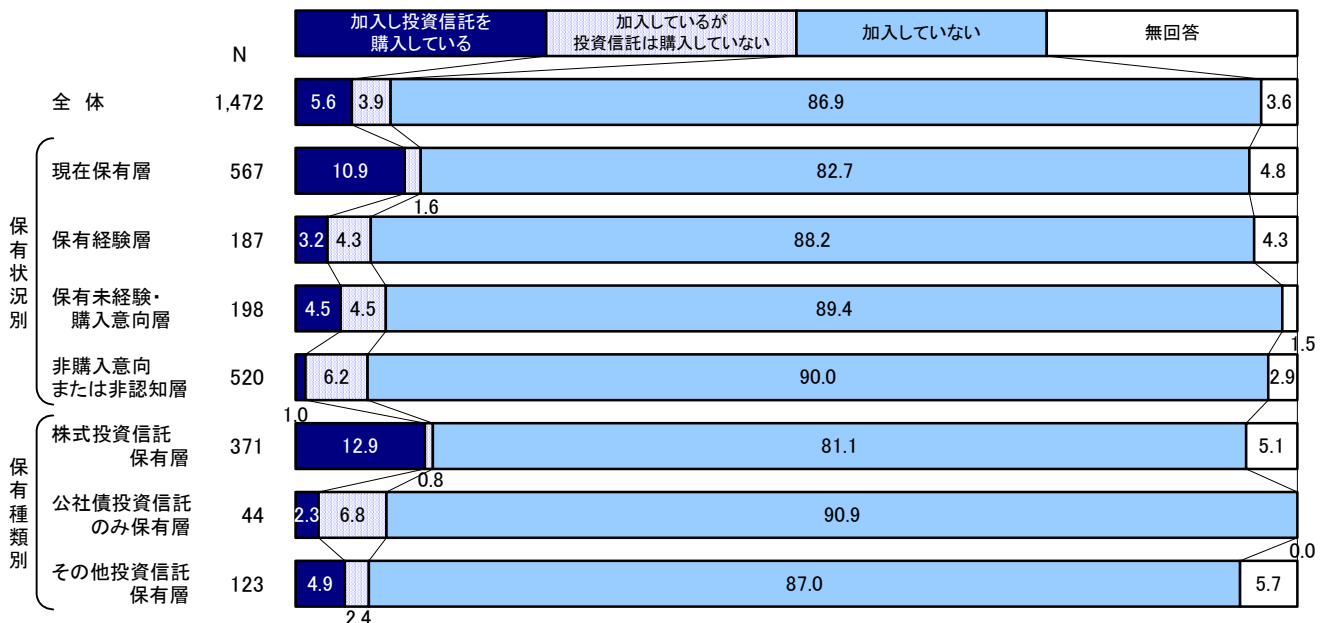
【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／時系列】



【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／基本軸1】



【確定拠出年金の加入状況(単数回答)／基本軸2】



(6) 上場投資信託の認知と興味〔問 33、問 34①②〕

① 上場投資信託の認知

証券取引所に上場している投資信託の認知率は、「不動産投信」が 21.9%、「E T F」が 18.8%であり、2 商品がほぼ同程度で並んでいる。「どちらも知らない」が 68.8%を占め、どちらか1 つでも知っている率は約 30%に過ぎない。

時系列でみると、「不動産投信」、「E T F」の認知率は平成 18 年から 21 年には高くなったが、今回は大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、「不動産投信」、「E T F」ともに男性の方が女性より認知率が高い。一方、「どちらも知らない」率は女性で 76.1%と高く、男性 (62.7%) を大きく上回っている。

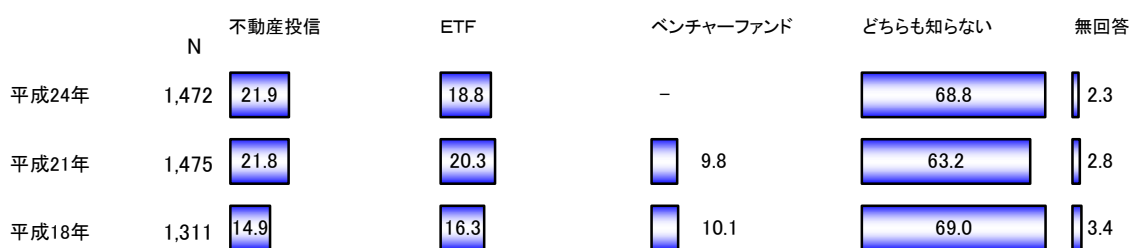
年代別では、「不動産投信」、「E T F」ともに認知率に大きな差はみられないが、「どちらも知らない」率は 40 代で 75.8%と最も高く、70 歳以上では 58.9%と低い。

年収別では、「不動産投信」、「E T F」ともに認知率は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。これに対し、「どれも知らない」は年収が低いほど高く、「100 万円未満」の低年収層では 80%を超える。

投資信託保有状況別では、「不動産投信」、「E T F」ともに認知率は現在保有層 > 保有経験層 > 保有未経験・購入意向層 > 非購入意向または非認知層の順に高く、投資信託に關与している度合いが高いほど認知率も高い傾向がみられる。

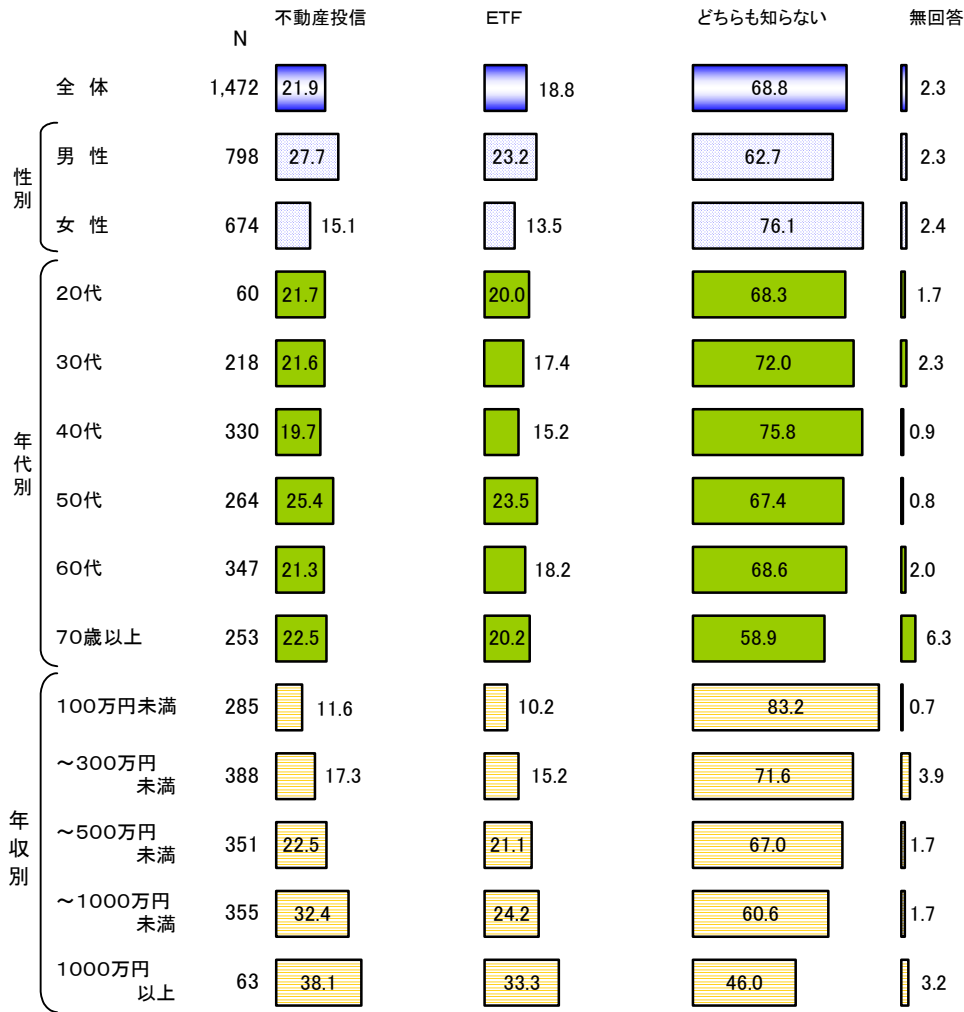
投資信託保有種類別でみると、「不動産投信」、「E T F」ともに認知率は株式投資信託保有層が他 2 層に比べ高い。公社債投資信託のみ保有層は、他 2 層に比べ「どちらも知らない」が高く、8 割を超える。

【上場投資信託の認知(重複回答)／時系列】

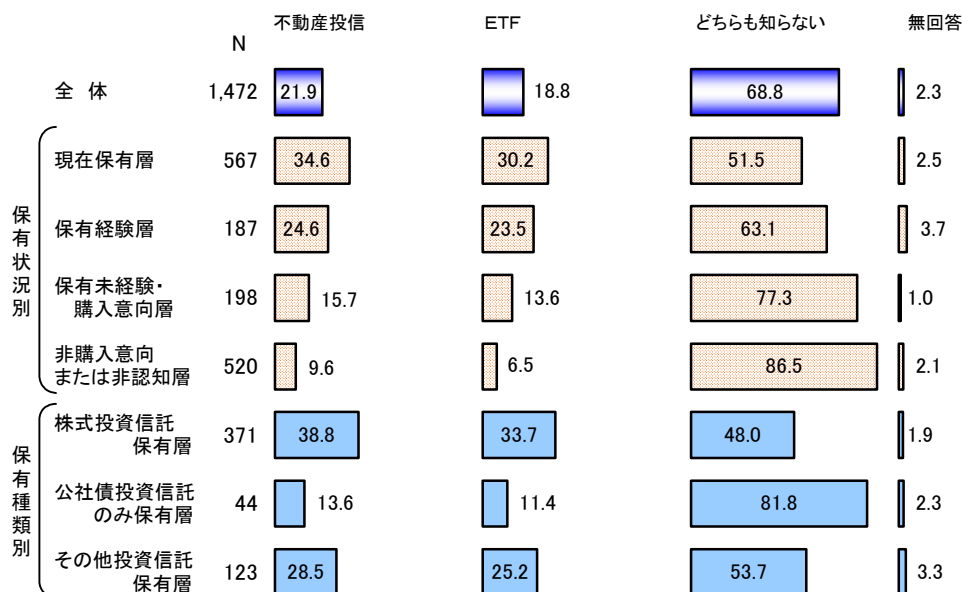


*平成 24 年調査では「ベンチャーファンド」の選択肢がない点に注意が必要

【上場投資信託の認知(重複回答)／基本軸1】



【上場投資信託の認知(重複回答)／基本軸2】



② E T F への興味

上場投資信託のうち『E T F』を「現在保有している」のは5.0%、「購入してみたい」は3.6%であり、これらを合わせた“興味率”は8.6%に過ぎない。一方、「購入するつもりはない」は25.8%に対し、「詳しく知らないので、わからない」が59.2%と過半数を占める。

時系列でみると、「購入してみたい」は減少傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、男性は女性に比べ“興味率”はやや高いが、「購入するつもりはない」もやや高く、「詳しく知らないので、わからない」は男性(53.4%)より女性(66.0%)の方が高い。

年代別では、「詳しく知らないので、わからない」は40代以下では70%台と高いが、50～60代では60%弱に下がり、70歳以上では36.8%と低いが、「購入するつもりはない」が41.1%と高く、知識はあるが、意識的に購入しないことを選んでいる人が多いようである。

年収別では、“興味率”は「100万円未満」の低年収層では3.6%と低いですが、年収が上がるにつれ高くなり、「1000万円以上」の高年収層では19.0%にのぼる。一方、「詳しく知らないので、わからない」は年収が低いほど高い傾向がみられるが、「購入するつもりはない」の差はあまりなく、知識はあるが意識的に購入しない率は、年収に関わらず、各層とも一定の割合で存在していることがわかる。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層で『E T F』を「現在保有している」は13.1%である。「購入してみたい」は非購入意向または非認知層以外の3層では、大きな差はみられないが、「購入するつもりはない」は保有経験層で48.1%と特に高い。「詳しく知らないので、わからない」は現在保有層や保有経験層では40%台だが、保有未経験・購入意向層では70%台と高い。

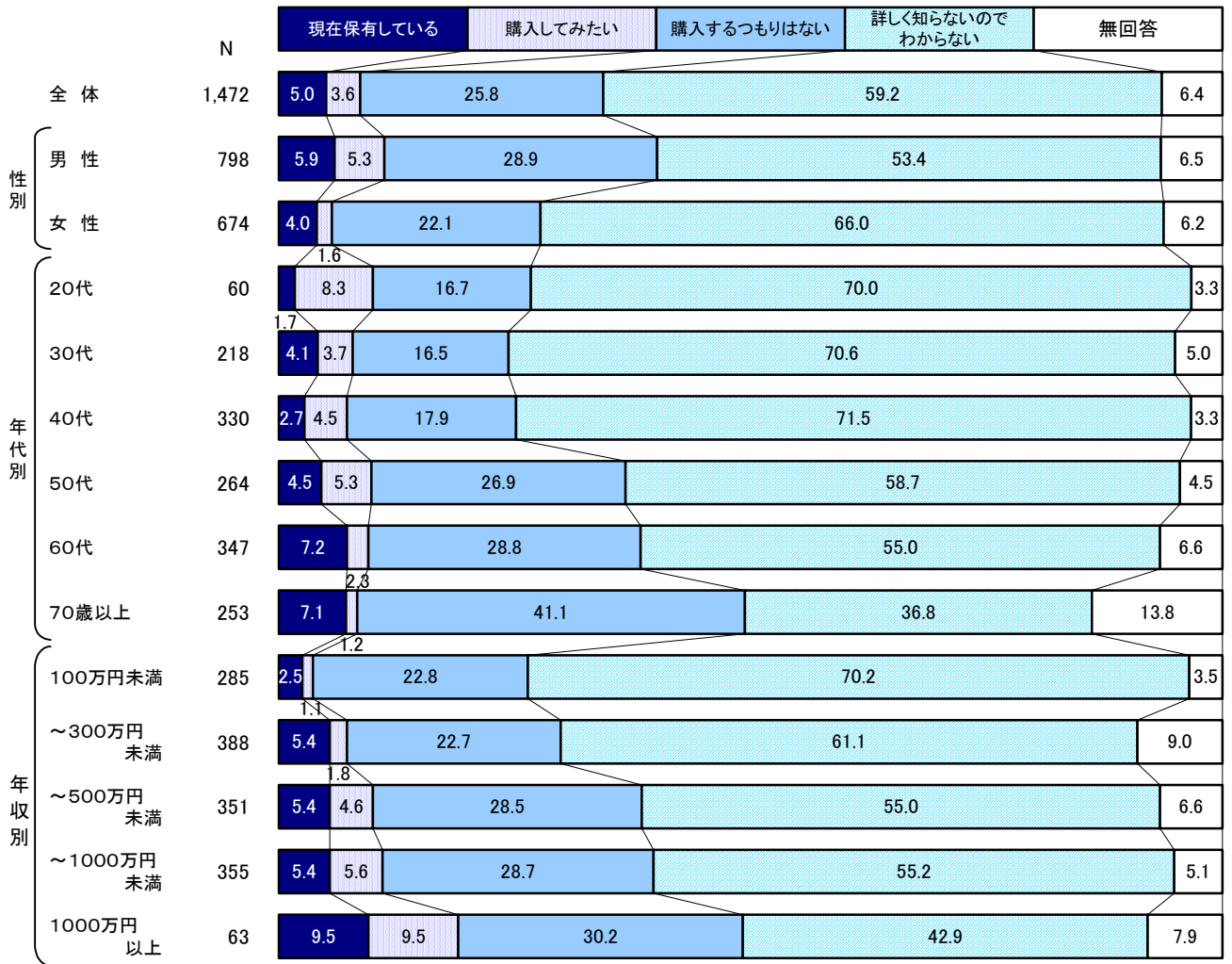
投資信託保有種類別にみると、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では大きな差はみられないが、公社債投資信託のみ保有層はこれらの層に比べ「詳しく知らないので、わからない」が高い。

【E T F への興味(単数回答)／時系列】

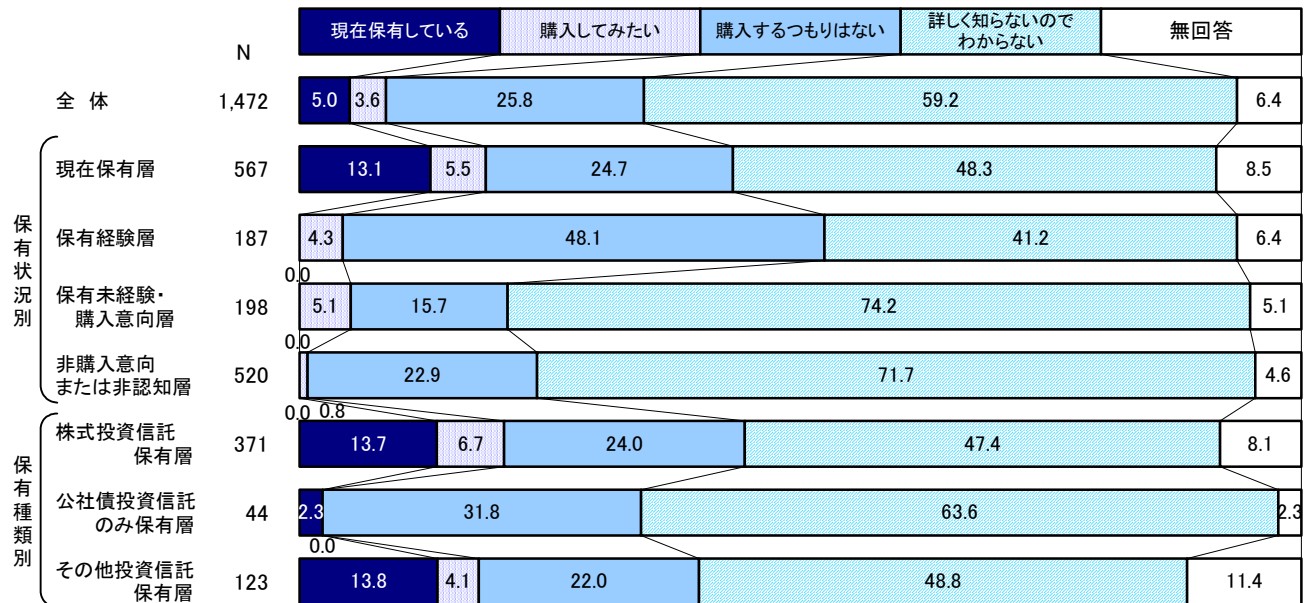


*平成24年調査より「詳しく知らないのでわからない」の選択肢が追加されている

【ETFへの興味(単数回答)／基本軸1】



【ETFへの興味(単数回答)／基本軸2】



③ 不動産投信への興味

上場投資信託のうち『不動産投信』を「現在保有している」のは5.6%、「購入してみたい」は4.6%であり、これらを合わせた“興味率”は10.2%に過ぎない。一方、「購入するつもりはない」は27.8%に対し、「詳しく知らないので、わからない」が56.4%と過半数を占め、ここでも興味喚起のための知識の普及が大切なことがうかがえる。

時系列でみると、“興味率”には顕著な変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、“興味率”は男性(12.4%)の方が女性(7.5%)より高いが、男性は「購入するつもりはない」も高く、女性は「詳しく知らないので、わからない」が高い。

年代別では、「詳しく知らないので、わからない」は若年層ほど高いのに対し、「購入するつもりはない」率は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、高年齢層では知識はあるものの、意識的に購入しないことを選ぶ人が多いようである。

年収別では、「現在保有している」に大きな差はみられないが、「購入してみたい」は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、「1000万円以上」の高年収層では12.7%となっている。一方、「詳しく知らないので、わからない」は年収が低いほど高くなる傾向がみられ、「100万円未満」の低年収層では70%近くを占める。

投資信託保有状況別では、現在保有層で『不動産投信』を「現在保有している」は14.6%である。「購入してみたい」は非購入意向または非認知層以外の3層では大きな差はみられないが、「購入するつもりはない」は保有経験層で49.7%と高い。「詳しく知らないので、わからない」は現在保有層や保有経験層では40%前後であるが、保有未経験・購入意向層や非購入意向または非認知層では70%と過半数を占めている。

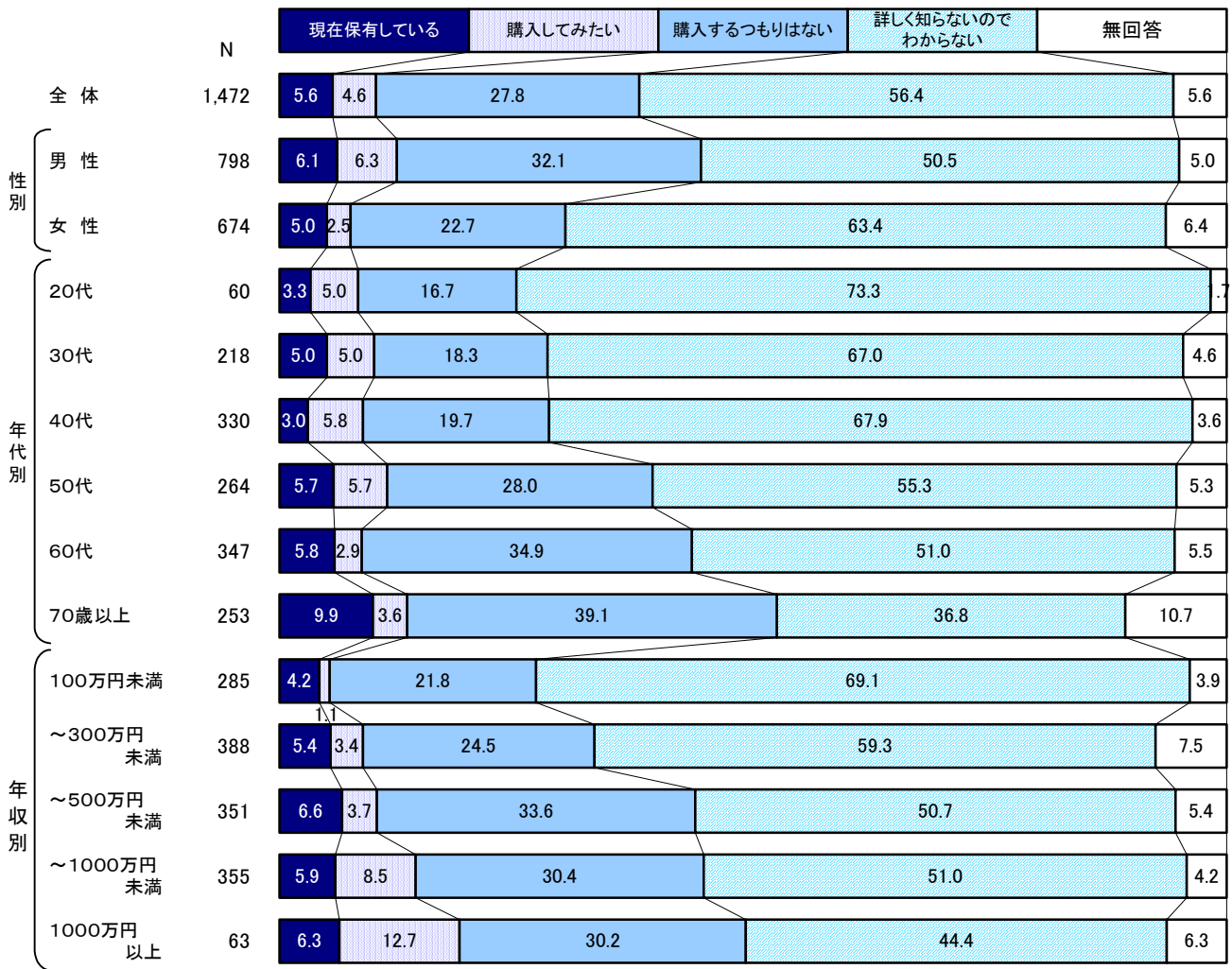
投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層では大きな差はみられないが、公社債投資信託のみ保有層はこれらの層に比べ「詳しく知らないので、わからない」が高い。

【不動産投信への興味(単数回答)／時系列】

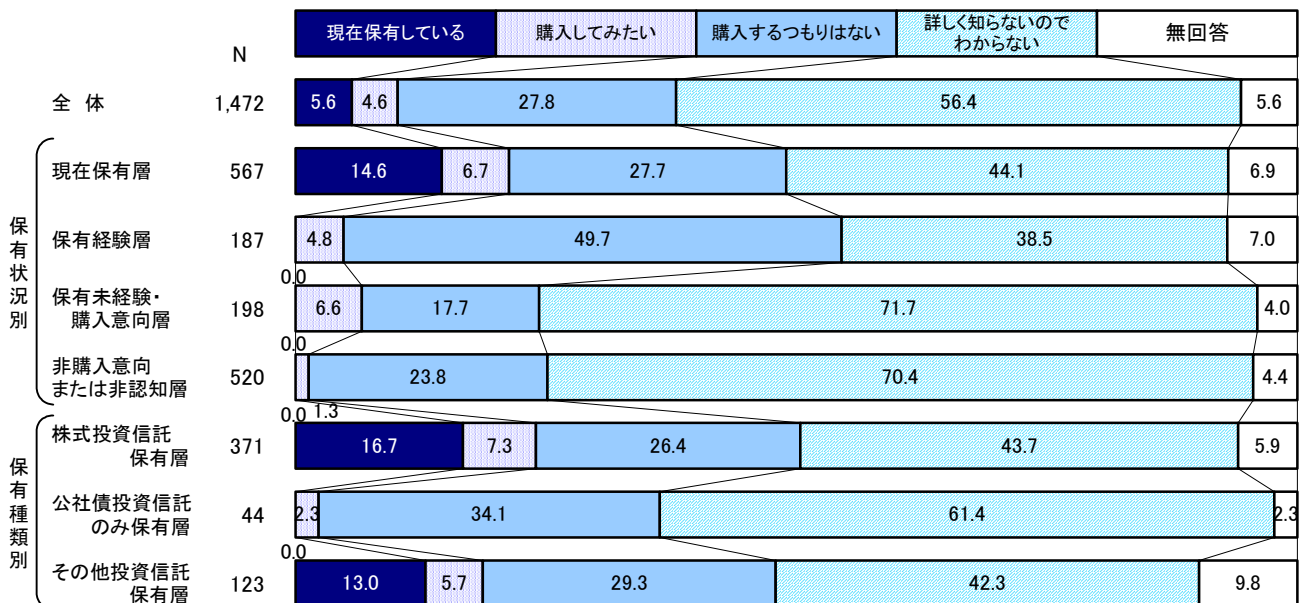
	N	現在保有している	購入してみたい	購入するつもりはない	詳しく知らないので わからない	無回答
平成24年	1,472	5.6	4.6	27.8	56.4	5.6
平成21年	1,475	5.0	5.9	81.8		7.3
平成18年	1,311	3.3	8.7	80.8		7.2

*平成24年調査より「詳しく知らないのでわからない」の選択肢が追加されている

【不動産投信への興味(単数回答)／基本軸1】



【不動産投信への興味(単数回答)／基本軸2】



(7) 資産やリスクについての考え方〔問 35〕

最近の景気などを踏まえての資産運用やリスクについての考え方としては、「リターンが少なくとも、元本保証があるものを選びたい」が44.3%で最も高い。次いで「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」が31.7%、「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」が21.0%と続く。一方、「今が、株式や投資信託購入のチャンス」は15.4%と低い。なお、「特にない・わからない」も22.4%みられる。

平成21年の調査結果とは、選択肢が変わっているため時系列比較のコメントは割愛する。

対象者属性別では、性別でみると、「リターンが少なくとも、元本保証があるものを選びたい」は男性(37.5%)より女性(52.4%)の方が高いが、男性の方が「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」や「今が、株式や投資信託購入のチャンス」は高い。

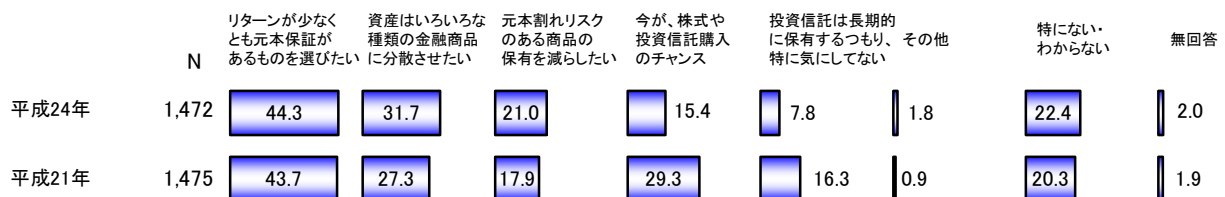
年代別では、「リターンが少なくとも、元本保証があるものを選びたい」は30代以下に比べ、40代以上の方がやや高く、「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」も40代以下に比べ50代以上では高い。

年収別では、「リターンが少なくとも、元本保証があるものを選びたい」や「特にない・わからない」は年収が低い層ほど高い。一方、「資産はいろいろな種類の金融商品に分散させたい」や「今が、株式や投資信託購入のチャンス」といった投資に積極的な考えは、年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層は多くの項目で高く、多様な考えをしていることがわかる。一方、非購入意向または非認知層は「特にない・わからない」が半数近く(45.8%)を占める。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「元本割れリスクのある商品の保有を減らしたい」と考える率が高い。

【資産運用やリスクについての考え方(重複回答)／時系列】



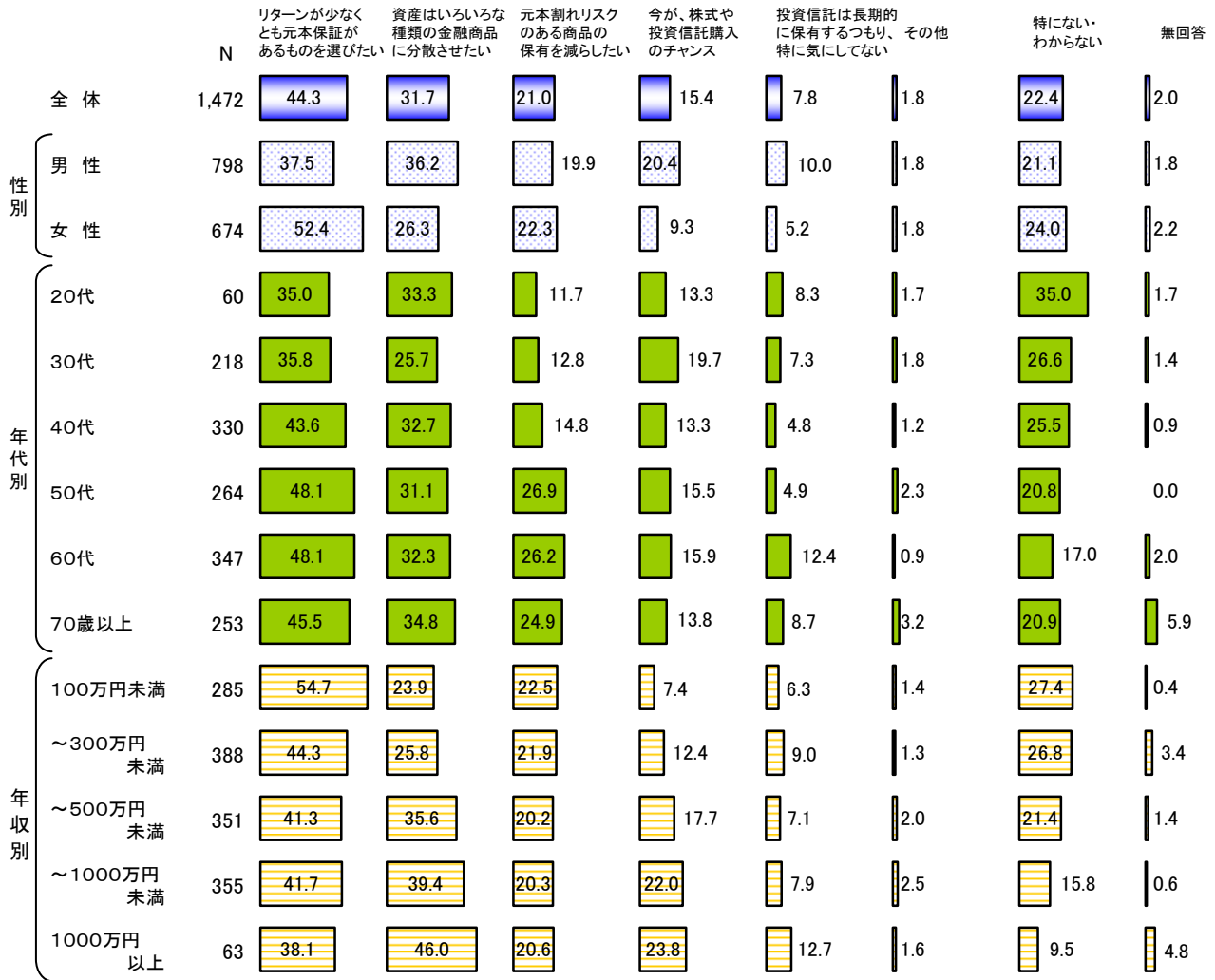
*平成24年調査より選択肢が変更されている点に注意が必要

「株価下落の今、株式や投資信託購入のチャンス」→「今が、株式や投資信託購入のチャンス」

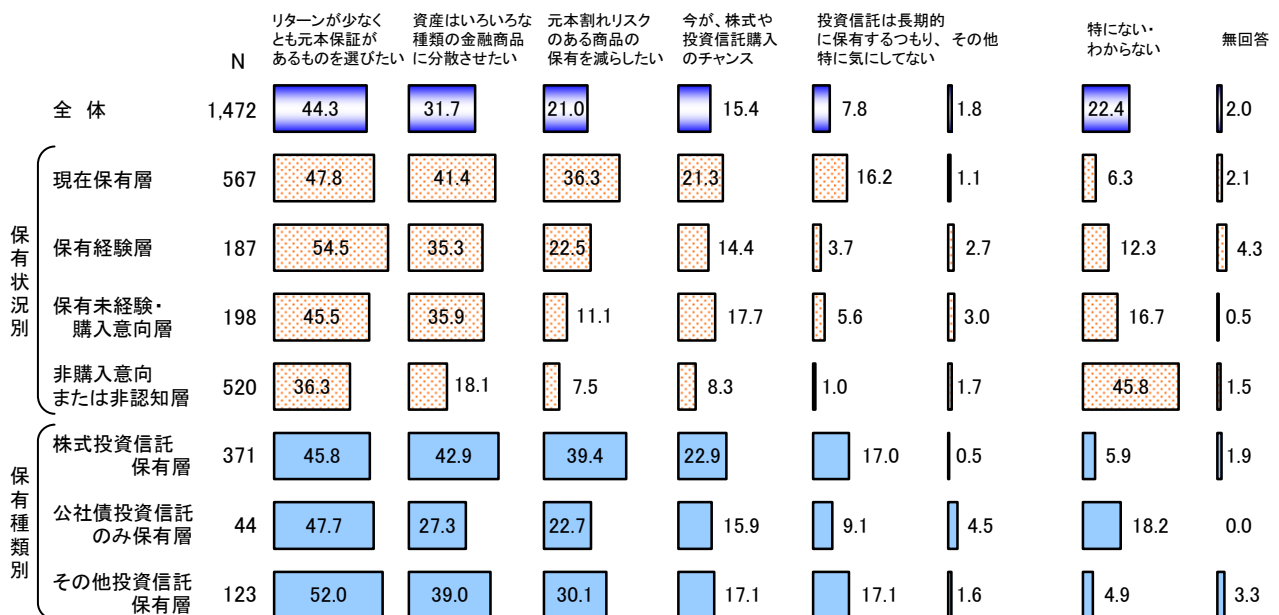
「投資信託は長期運用するものなので、特に気にしてない」

→「投資信託は長期的に保有するつもり、特に気にしてない」

【資産運用やリスクについての考え方(重複回答)／基本軸1】



【資産運用やリスクについての考え方(重複回答)／基本軸2】



(8) 金融商品や投資に関する情報源〔問 36〕

現在、金融商品や投資に関する情報を得ているのは、「新聞」が50.1%で最も高く、次いで「インターネット」(34.6%)と「テレビ」(31.4%)が同程度で続いている。「マネー系の雑誌」も14.4%みられるが、それ以外は10%以下と低い。また、「特に情報は得ていない」も22.6%みられる。

対象者属性別では、性別で見ると、男性の方が「新聞」と「インターネット」はともに高いが、「インターネット」の方が差が大きい。「マネー系の雑誌」も男性の方がやや高く、女性は男性に比べ「特に情報は得ていない」人が多い。

年代別では、「新聞」は年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられるが、「インターネット」は逆に若年層ほど高い。この結果、40代以下では「インターネット」がトップの情報元であるが、50代以上では「新聞」がトップとなっている。なお、「マネー系の雑誌」は年代が上がるにつれ低くなる。なお、「特に情報は得ていない」には年代差がみられない。

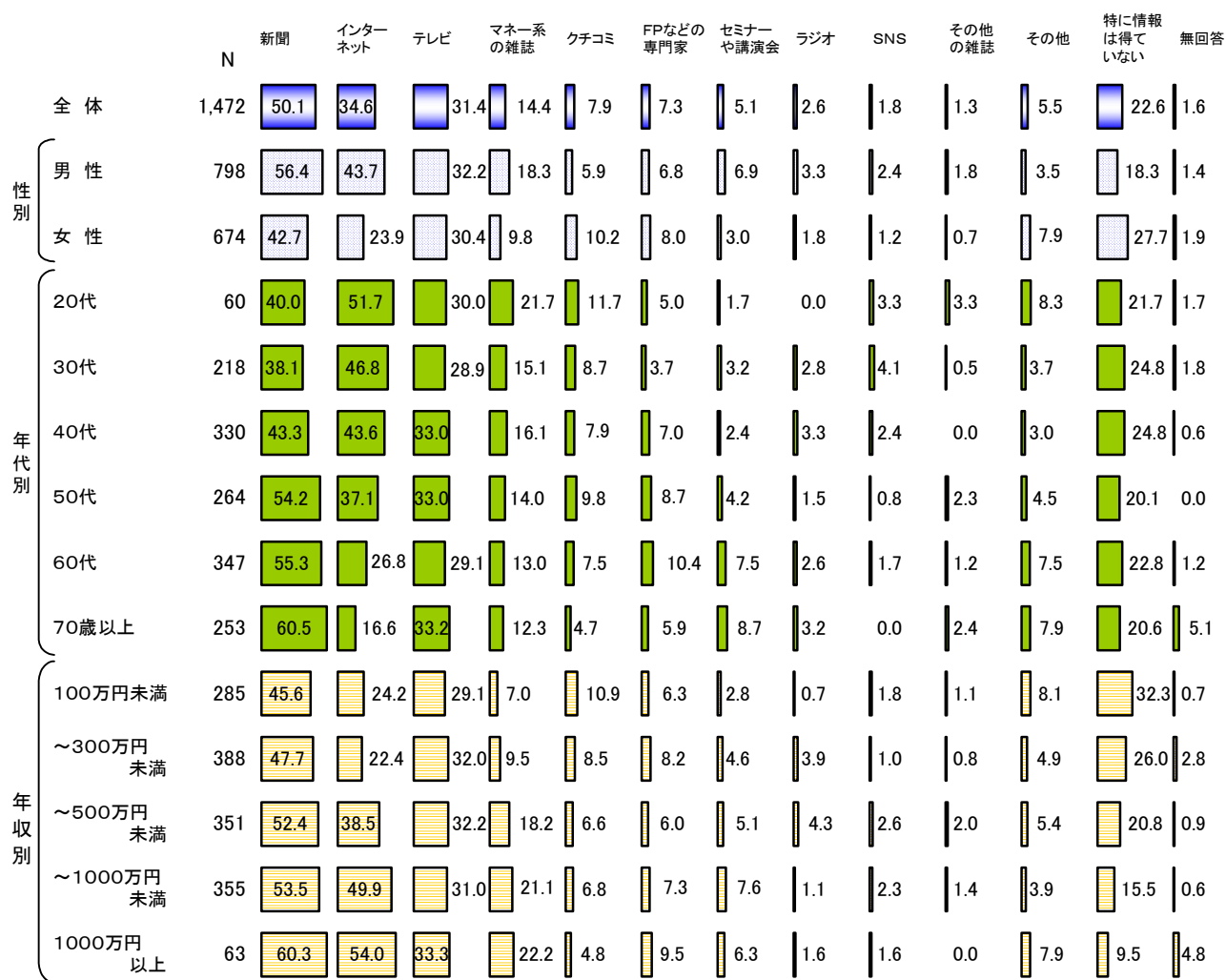
年収別では、「新聞」、「インターネット」、「マネー系の雑誌」は年収が上がるにつれ高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別にみると、保有未経験・購入意向層は「インターネット」や「テレビ」が他の層より高いが、それ以外の項目は現在保有層や保有経験層とほぼ同じ傾向となっている。一方、非購入意向または非認知層は「特に情報は得ていない」が37.1%と高く、全般的に利用している率は低い。中でも「インターネット」(26.3%)は他の層との差が特に大きい。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「インターネット」が高い。

居住地別では、「新聞」はその他の関東でやや高い。それ以外には大きな差はみられない。

【金融商品や投資に関する情報源（重複回答）／基本軸1】



【金融商品や投資に関する情報源（重複回答）／基本軸2】

	N	新聞	インターネット	テレビ	マネー系の雑誌	クチコミ	FPなどの専門家	セミナーや講演会	ラジオ	SNS	その他の雑誌	その他	特に情報は得ていない	無回答		
全体	1,472	50.1	34.6	31.4	14.4	7.9	7.3	5.1	2.6	1.8	1.3	5.5	22.6	1.6		
保有状況別	現在保有層	567	56.4	36.5	27.9	16.9	8.3	11.1	8.5	2.3	1.2	1.1	8.1	14.1	1.6	
	保有経験層	187	56.1	39.6	30.5	16.6	6.4	8.6	3.7	3.7	2.7	3.7	6.4	16.0	3.2	
	保有未経験・購入意向層	198	50.5	46.5	40.4	19.7	12.6	7.1	3.0	1.5	3.5	1.0	3.0	15.2	0.5	
	非購入意向または非認知層	520	41.0	26.3	32.1	8.8	6.2	2.9	2.7	2.9	1.5	0.8	3.3	37.1	1.5	
	株式投資信託保有層	371	57.7	40.7	27.2	18.6	7.0	10.0	7.5	2.7	0.5	1.1	7.5	12.9	1.3	
保有種類別	公社債投資信託のみ保有層	44	54.5	22.7	31.8	11.4	13.6	6.8	6.8	2.3	2.3	2.3	15.9	22.7	0.0	
	その他投資信託保有層	123	52.8	26.8	26.8	12.2	8.9	17.1	9.8	0.8	1.6	0.8	7.3	16.3	2.4	
	居住地別	北海道・東北	147	47.6	32.7	27.9	10.9	5.4	12.9	10.2	3.4	3.4	0.7	3.4	24.5	0.0
		首都圏	426	49.5	37.8	30.5	16.0	6.8	4.9	3.3	2.3	1.2	0.9	5.6	24.2	0.7
		その他の関東	137	55.5	38.0	34.3	17.5	9.5	5.1	7.3	3.6	0.7	2.2	3.6	19.0	1.5
		中部	286	52.1	33.9	30.1	14.0	8.7	9.1	5.9	3.1	2.8	1.7	4.5	24.5	2.1
近畿		247	45.7	30.8	30.8	13.0	10.1	8.1	4.9	0.8	2.0	0.8	6.9	21.5	3.6	
中国・四国・九州	229	52.0	33.2	35.8	14.0	7.0	6.6	3.1	3.1	1.3	1.7	7.4	19.7	1.7		

9. インターネットによる金融取引状況(回答者全体)

(1) インターネットの利用頻度〔問37〕

普段のインターネットの利用頻度（仕事での利用は除く）は、「ほぼ毎日」が44.4%で最も高く、「週に3～5日」（11.3%）、「週に1～2日」（10.4%）が続く。「パソコンや携帯・スマートフォンは持っていない・使わない」（以下、「持っていない・使わない」と表記する）は15.4%で、インターネットの利用率は80%を超えている。

平成21年の調査結果と比べると、「ほぼ毎日」が8.9ポイント高くなったのに対し、「持っていない・使わない」は6.5ポイント下がり、全般的に利用率、利用頻度ともに高くなっている。

対象者属性別では、性別で見ると、「ほぼ毎日」は男性（51.3%）の方が女性（36.4%）より高い。

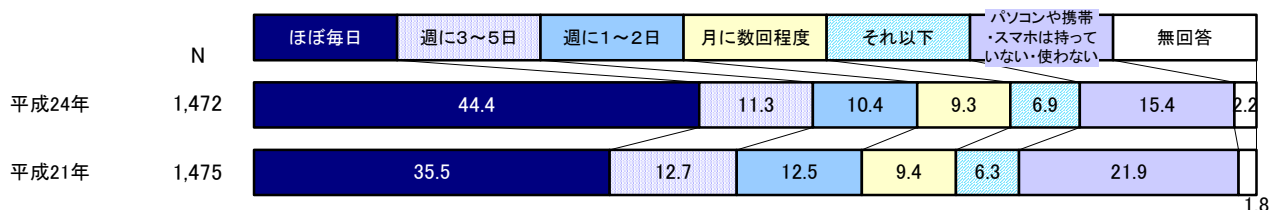
年代別では、「ほぼ毎日」利用する率は20代では80%と高いが、年代が上がるにつれ低くなる傾向がみられ、特に60代以上では急激に低下している。70歳以上では「持っていない・使わない」が46.2%と過半数を占め、「ほぼ毎日」利用するのは16.2%のみである。

年収別では、年収が高いほどインターネットの利用頻度が高くなる傾向がみられ、「1000万円以上」の高年収層では69.8%が「ほぼ毎日」利用している。「100万円未満」の低年収層は「～300万円未満」の層より「ほぼ毎日」利用する率が高い。

投資信託保有状況別では、「ほぼ毎日」利用する率は保有未経験・購入意向層や非購入意向または非認知層（50%前後）の方が現在保有層や保有経験層（40%弱）に比べ高い。「持っていない・使わない」率は保有未経験・購入意向層で5.1%と特に低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べ「ほぼ毎日」の率がやや高い。

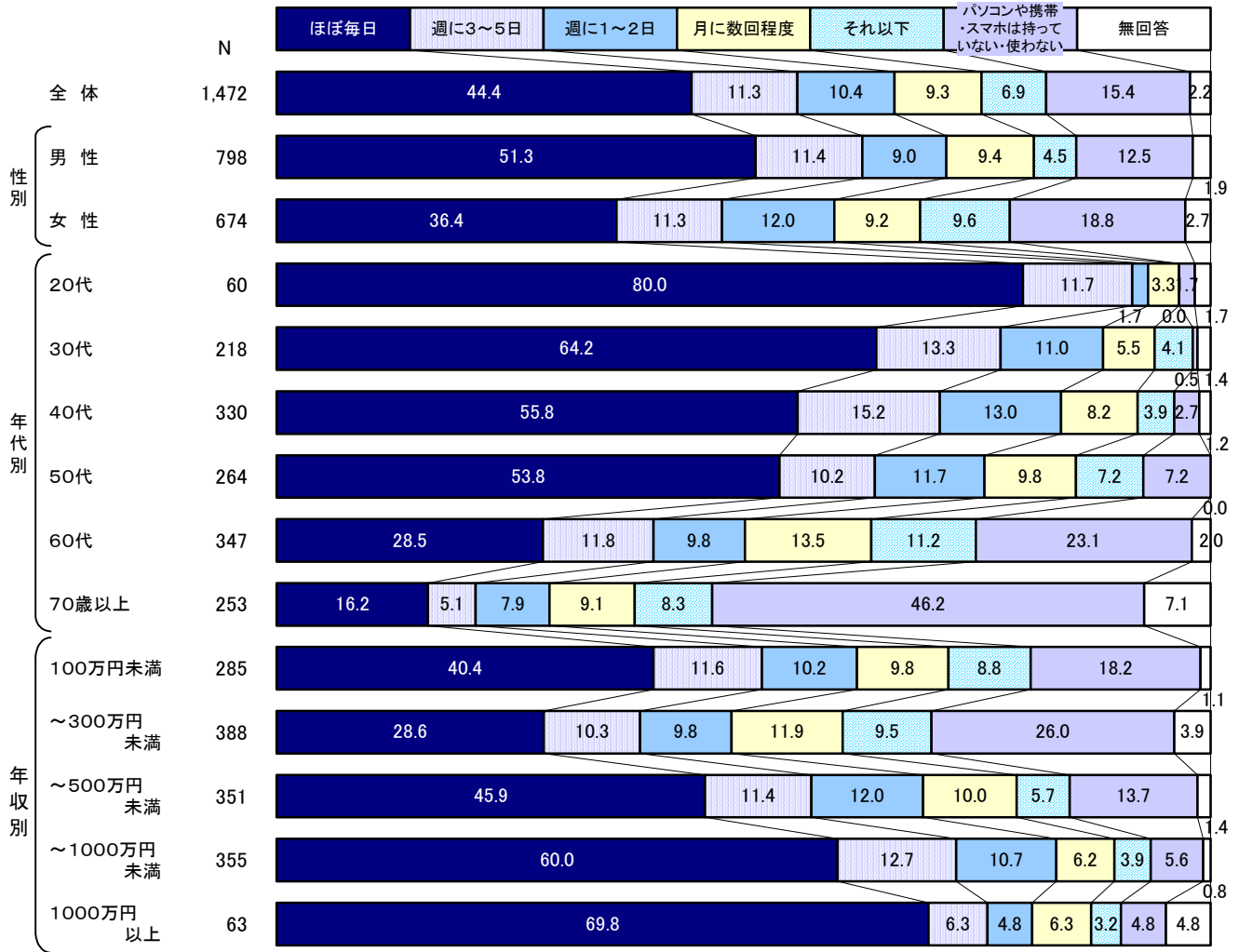
【インターネットの利用頻度(単数回答)／時系列】



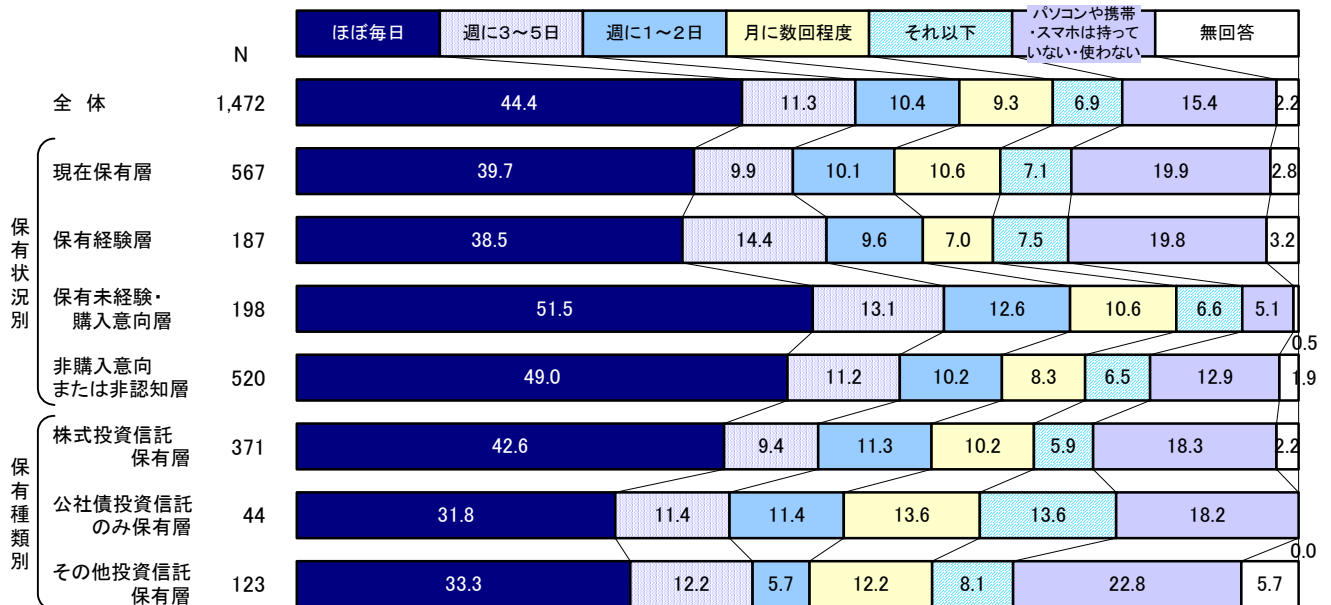
*平成24年調査より選択肢が変更されている点に注意が必要

「パソコンは持っていない・使わない」→「パソコンや携帯・スマホは持っていない・使わない」

【インターネットの利用頻度(単数回答)／基本軸1】



【インターネットの利用頻度(単数回答)／基本軸2】



(2) インターネットによる金融取引経験〔問 38〕

インターネットを通じた金融取引を行ったことが、「ある」のは31.3%であり、「利用経験はないが、今後行いたい」は10.1%みられる。ただし、「利用経験なく、今後も利用意向なし」が過半数(55.0%)を占めている。

時系列で見ると、ネット取引経験が「ある」に増加傾向がみられるが、「利用経験はないが、今後行いたい」はやや減少傾向がみられる。

対象者属性別では、性別で見ると、ネット取引経験が「ある」は男性(38.2%)の方が女性(23.1%)より高い。女性では「利用経験なく、今後も利用意向なし」が過半数(64.2%)を占め、男性(47.2%)を大きく上回っている。

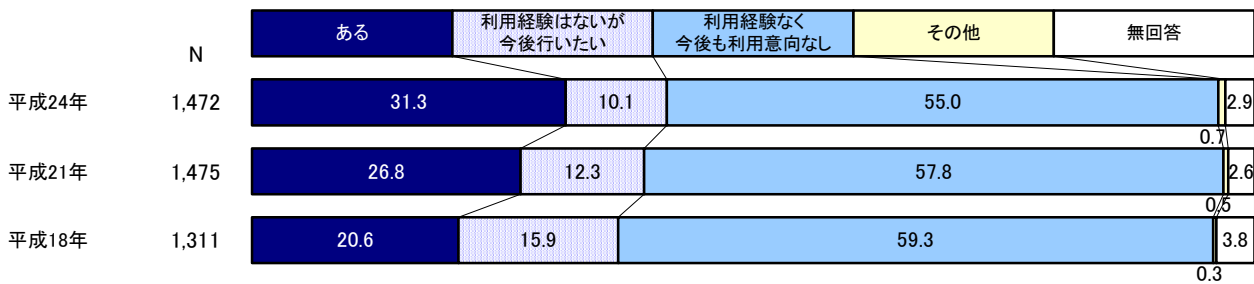
年代別では、ネット取引経験が「ある」は30代が49.5%で最も高く、それ以上は年代が上がるにつれて低くなり、70歳以上では14.2%にとどまる。「利用経験はないが、今後行いたい」は20代が28.3%で最も高い。

年収別では、ネット取引経験が「ある」は「～300万円未満」の層で19.1%と最も低いが、年収が上がるにつれ高くなり、「1000万円以上」の高年収層では50.8%と半数を占めている。

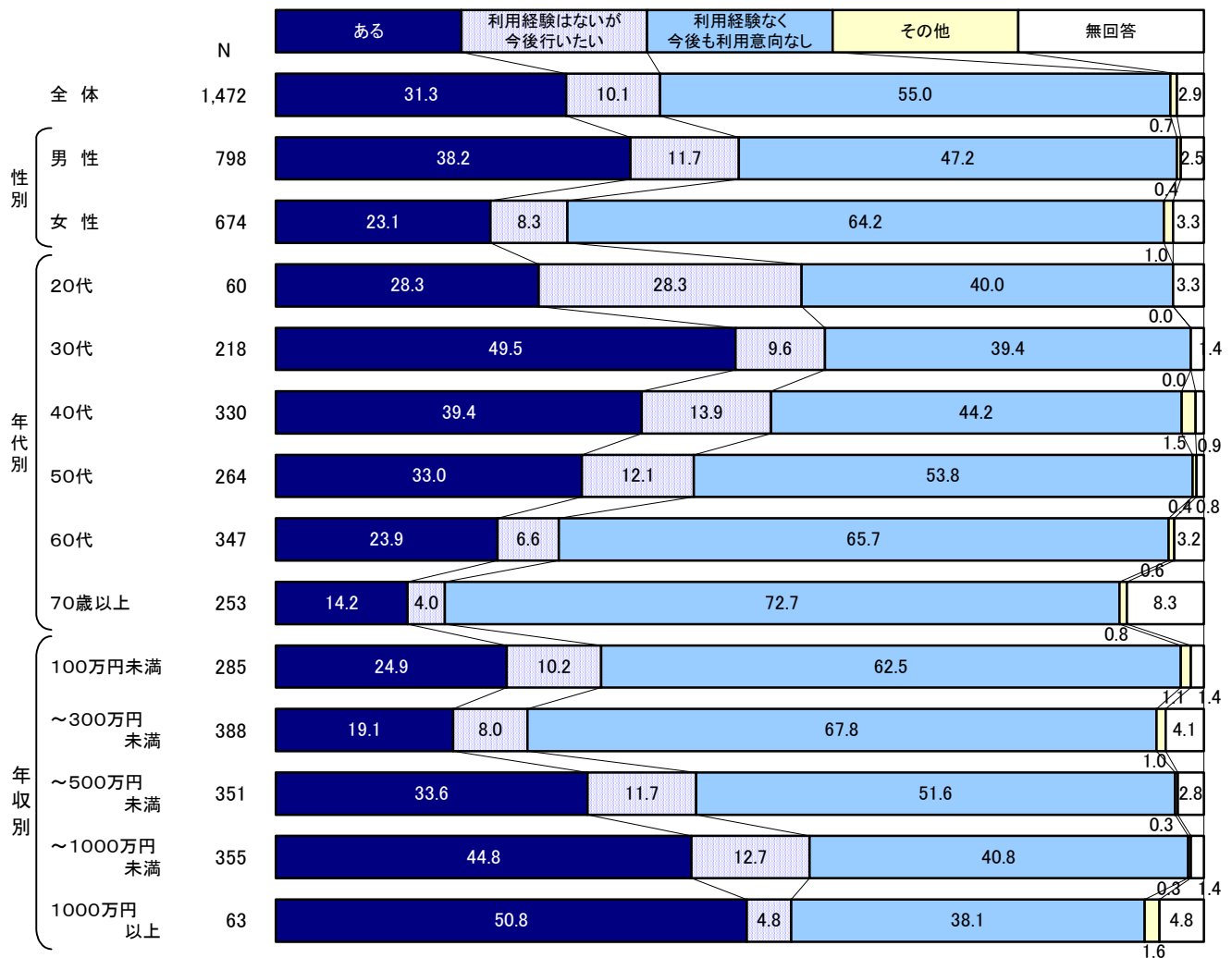
投資信託保有状況別にみると、ネット取引経験が「ある」率は非購入意向または非認知層で25.8%と低い。一方、「利用経験はないが、今後行いたい」は保有未経験・購入意向層で23.2%と特に高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は他2層に比べネット取引経験が「ある」が高い。

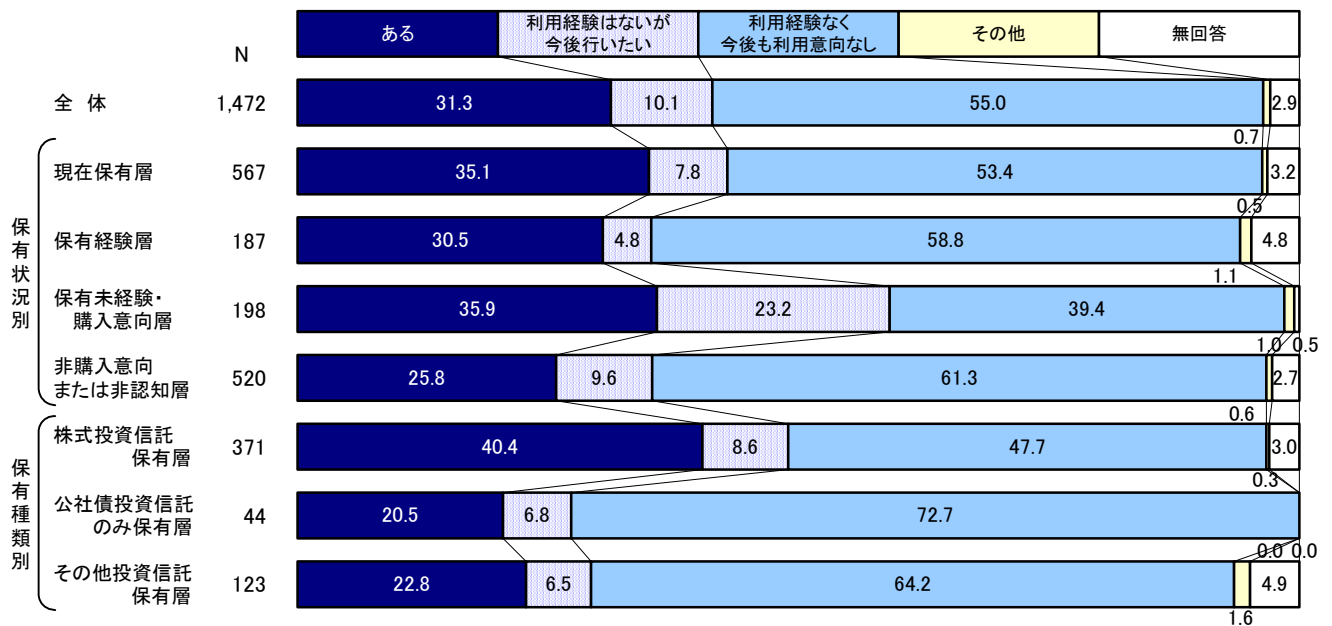
【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／時系列】



【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／基本軸1】



【インターネットによる金融取引経験(単数回答)／基本軸2】



(3) インターネット取引経験のある金融商品(インターネット取引経験者)〔問 38-1〕

インターネットによる金融取引経験がある人に対し、取引を行ったことがある金融商品を探ねたところ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が63.1%で最も高く、「普通預貯金」(54.7%)、「定期預金・外貨預金」(31.9%)、「損保・生保」(20.4%)の順に続く。「(ETF・不動産投信以外の)投資信託」は14.8%、「ETF・不動産投信」は7.8%、「外国為替証拠金取引(FX)」は7.6%であり、これらのインターネットでの取引経験率は高くはない。

時系列でみると、「普通預貯金」は平成21年の調査結果に比べ8.6ポイント高くなっており、「投資信託」、「ETF・不動産投信」も微増傾向がみられる。

対象者属性別では、性別でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のネット取引経験率は男性(69.2%)の方が女性(51.3%)より高いが、「定期預金・外貨預金」のネット取引経験率は男性(26.9%)より女性(41.7%)の方が高い。

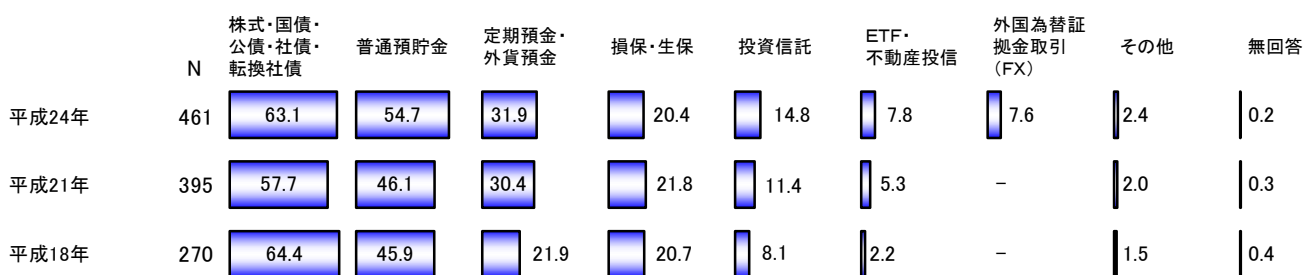
年代別では、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のネット取引経験率は40代以上で年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられるが、「普通預貯金」と「定期預金・外貨預金」のネット取引経験率は高年齢層ほど低くなる。

年収別では、『1000万円未満』の層ではネット取引経験率に大きな差がみられる商品はない。「1000万円以上」の高年収層は「定期預金・外貨預金」のネット取引経験率は他の層よりやや高い。

投資信託保有状況別では、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のネット取引経験率は保有未経験・購入意向層では50.7%と低い。「普通預貯金」のネット取引経験率は保有経験層で38.6%と低い。「定期預金・外貨預金」、「投資信託」、「ETF・不動産投信」のネット取引経験率は現在保有層が最も高い。

【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)／時系列

ーインターネット取引経験者ベース】



*平成24年調査より「外国為替証拠金取引(FX)」の選択肢が追加されている

【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)／基本軸1

ーインターネット取引経験者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	株式・国債・ 公債・社債・ 転換社債	普通預貯金	定期預金・ 外貨預金	損保・生保	投資信託	ETF・ 不動産投信	外国為替証 拠金取引 (FX)	その他	無回答	
全体	461	63.1	54.7	31.9	20.4	14.8	7.8	7.6	2.4	0.2	
性別	男性	305	69.2	26.9	22.0	14.4	9.5	10.2	1.6	0.3	
	女性	156	51.3	41.7	17.3	15.4	4.5	2.6	3.8	0.0	
年代別	20代	17	52.9	35.3	11.8	17.6	5.9	5.9	0.0	0.0	
	30代	108	50.0	39.8	18.5	13.9	10.2	7.4	2.8	0.0	
	40代	130	53.1	60.0	35.4	26.2	13.8	3.8	7.7	2.3	0.8
	50代	87	70.1	58.6	32.2	24.1	12.6	11.5	9.2	5.7	0.0
	60代	83	80.7	39.8	21.7	15.7	18.1	2.4	9.6	0.0	0.0
	70歳以上	36	86.1	25.0	16.7	11.1	16.7	19.4	0.0	0.0	0.0
	年収別	100万円未満	71	50.7	35.2	18.3	12.7	2.8	2.8	5.6	0.0
～300万円 未満		74	59.5	27.0	16.2	17.6	8.1	8.1	1.4	0.0	
～500万円 未満		118	66.1	31.4	18.6	15.3	10.2	8.5	0.0	0.0	
～1000万円 未満		159	65.4	29.6	22.0	11.9	7.5	8.2	3.1	0.6	
1000万円 以上		32	78.1	50.0	31.3	21.9	12.5	9.4	3.1	0.0	

【インターネット取引経験のある金融商品(重複回答)／基本軸2

ーインターネット取引経験者ベース】

	N	株式・国債・ 公債・社債・ 転換社債	普通預貯金	定期預金・ 外貨預金	損保・生保	投資信託	ETF・ 不動産投信	外国為替証 拠金取引 (FX)	その他	無回答
全体	461	63.1	54.7	31.9	20.4	14.8	7.8	7.6	2.4	0.2
保有状況別	現在保有層	199	65.3	40.2	24.1	29.6	16.1	8.0	1.5	0.5
	保有経験層	57	71.9	28.1	21.1	15.8	5.3	14.0	3.5	0.0
	保有未経験・ 購入意向層	71	50.7	31.0	18.3	0.0	0.0	5.6	4.2	0.0
	非購入意向 または非認知層	134	62.7	21.6	15.7	0.0	0.7	5.2	2.2	0.0

(4) インターネット取引意向のある金融商品(インターネット取引意向者)〔問 38-2〕

今までインターネットによる金融取引をしたことがないが、今後行ってみたいと思う人に対し、インターネットで取引を行ってみたい金融商品を探ねたところ、「株式・国債・公債・社債・転換社債」が61.7%で最も高い。次いで、「普通預貯金」(38.9%)、「定期預金・外貨預金」(29.5%)、「損保・生保」(20.8%)の順に高く、「外国為替証拠金取引(FX)」は10.1%、「ETF・不動産投信」「(ETF・不動産投信以外の投資信託)」はともに8.7%と低い。

時系列でみると、多少の増減はみられるが、明らかな傾向がみられる商品はない。

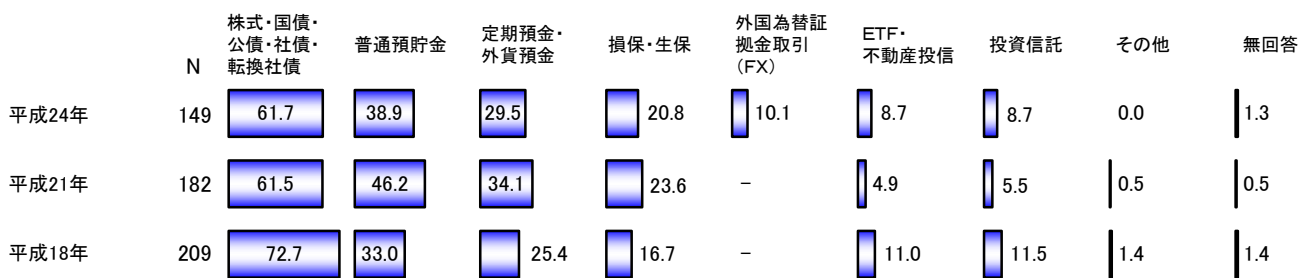
対象者属性別では、性別でみると、「株式・国債・公債・社債・転換社債」のネット取引意向率は男性(73.1%)が女性(42.9%)を大きく上回っているが、「普通預貯金」は男性(30.1%)より女性(53.6%)の方が高い。

年収別では、大きな差がみられる商品はない。

投資信託保有状況別では、「普通預貯金」のネット取引意向率は非購入または非認知層でやや高い。

【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)／時系列

ーインターネット取引意向者ベース】

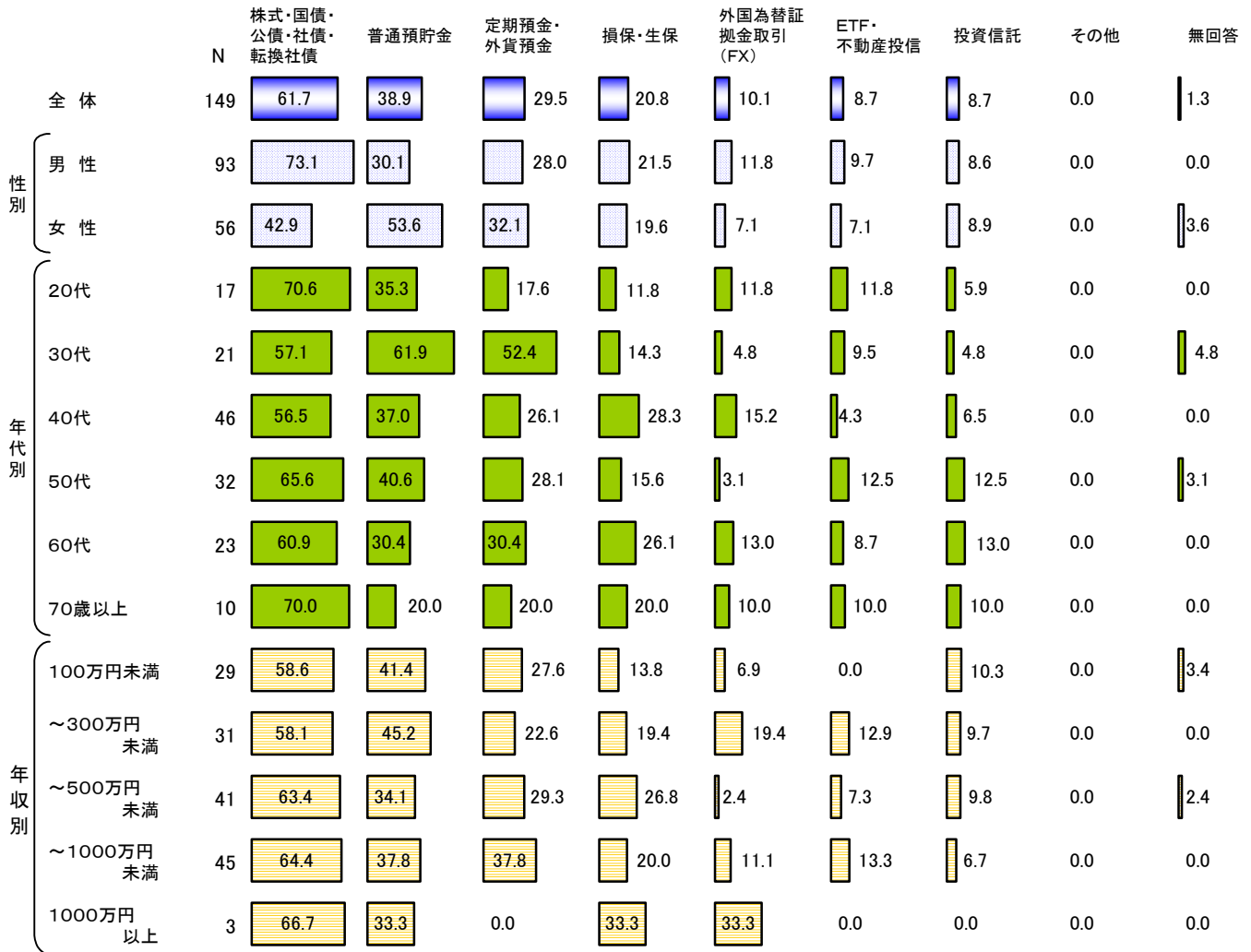


*平成24年調査より「外国為替証拠金取引(FX)」の選択肢が追加されている

【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)／基本軸1

－インターネット取引意向者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【インターネットによる取引意向のある金融商品(重複回答)／基本軸2

－インターネット取引意向者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

